



公益財団法人 甲南会

2023年度 事業報告書及び附属明細書



第1. 法人の概要

1. 基本理念	2
2. 甲南会の沿革	2
3. 組織・事業体系	2
4. 役員等一覧	3
5. 評議員会・理事会の開催	4
6. 病床数、標榜科目、職員数	5

第2. 各施設の概要

1. 甲南医療センター	6
2. 六甲アイランド甲南病院	23
3. 甲南加古川病院	26
4. 甲南介護老人保健施設	29
5. 甲南訪問看護ステーション	31
6. 甲南居宅介護支援事業所	32
7. 事務局	33

第3. 事業の概要

1. 新型コロナウイルス感染症への対応	34
2. 東灘次世代医療人材育成コンソーシアム	36
3. 公益目的事業の概要	37
4. 2023年度決算概況	55
5. 附属明細書	57

第1. 法人の概要

1. 基本理念

人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん

創立者 平生鈇三郎



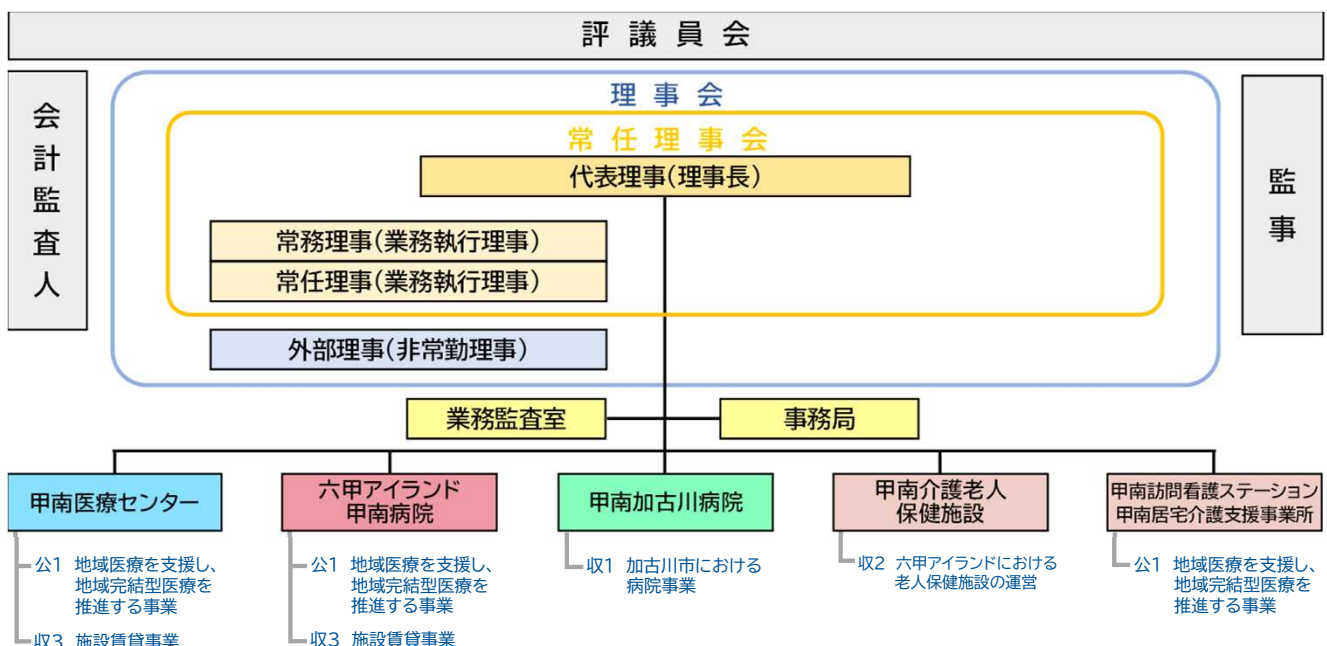
2. 甲南会の沿革

1934年(昭和9)	6月17日、甲南病院開院、看護婦養成所開設
1945年(昭和20)	第二次世界大戦終戦 11月、創立者平生鈇三郎死去(享年80歳) 甲南高等学校、甲南初等学校、甲南病院による合同葬を執り行う
1955年(昭和30)	准看護婦養成所発足
1970年(昭和45)	甲南病院附属高等看護学校開校
1974年(昭和49)	労働組合結成
1992年(平成4)	4月、六甲アイランド病院開院 法人事務局を設置
1995年(平成7)	1月17日、阪神・淡路大震災で被災
2000年(平成12)	国立加古川病院の移譲により、12月加古川病院開院
2001年(平成13)	10月、甲南訪問看護ステーション開設 11月、甲南介護老人 保健施設及び甲南居宅介護支援事業所を開設
2008年(平成20)	看護専門学校を閉校し、甲南女子大学へ継承
2012年(平成24)	「財団法人」から「一般財団法人」へ改称
2013年(平成25)	新甲南病院建設事業計画(Konan事業ビジョン2020)開始
2018年(平成30)	11月、甲南大学・甲南女子大学・神戸薬科大学・東灘区役所と共同し 医療人材育成を目的とした『東灘次世代医療人材育成コンソーシアム』を設立
2019年(令和元)	甲南会新キャラクター「ドクターこうにゃあ」と「MINAMIちゃん」が誕生
2020年(令和2)	4月、兵庫県より公益財団法人として認定を受ける 運営法人名を『一般財団法人甲南会』から「公益財団法人甲南会」に改称
2022年(令和4)	7月、新甲南病院建設事業計画(Konan事業ビジョン2020)完了
2024年(令和6)	3月、甲南加古川病院廃止(4月、医療法人伯鳳会に事業譲渡)



マスコットキャラクター
ドクターこうにゃあとMINAMIちゃん

3. 組織・事業体系



4. 役員等一覧

※2024年3月末日現在

役 職	氏 名	就任日	略 歴
評議員	山田 積	2013(平成25)年6月18日	新晃工業株式会社 元取締役
評議員	上塚 一也	2013(平成25)年6月18日	株式会社イチケン 元代表取締役社長
評議員	平野 欽一郎	2014(平成26)年6月20日	学校法人甲南学園 専務理事
評議員	下村 雅一	2015(平成27)年6月23日	学校法人甲南女子学園 常務理事
評議員	甲賀 淳	2016(平成28)年6月28日	東京海上日動火災保険株式会社 元広島支店長
評議員	廣岡 俊司	2016(平成28)年6月28日	一般財団法人住吉学園 監事
評議員	土佐 博一	2019(令和元)年6月26日	学校法人甲南学園甲南小学校 事務長
代表理事	具 英成	理事:2017(平成29)年6月29日 代表理事:2020(令和2)年12月13日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長
常務理事	三枝 康宏	理事:2015(平成27)年6月23日 常務理事:2020(令和2)年12月13日	公益財団法人甲南会 六甲アイランド甲南病院 院長
常任理事	黒田 浩光	2017(平成29)年6月29日	公益財団法人甲南会 甲南加古川病院 院長
常任理事	山田 浩幸	2019(平成31)年6月26日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長代行
常任理事	堀口 美由紀	2022(令和4)年6月22日	公益財団法人甲南会 看護部 統轄看護部長
常任理事	高尾 信太郎	2023(令和5)年6月21日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長代行
理 事	上村 多恵子	2012(平成24)年4月1日 ※設立時	京南倉庫株式会社 代表取締役社長 京南物流株式会社 代表取締役社長
理 事	竹田 統	2015(平成27)年6月23日	一般財団法人住吉学園 理事長
理 事	大高 裕司	2019(平成31)年6月26日	京阪神興業株式会社 取締役社長
理 事	廣田 省三	2020(令和2)年6月24日	医療法人貝山仁済会 理事長 医療法人泉仁会 理事長 医療法人明翔会 理事長
理 事	秋元 典子	2022(令和4)年6月22日	学校法人甲南女子学園 甲南女子大学 学長
理 事	堀田 博	2023(令和5)年6月21日	神戸大学 名誉教授
監 事	陰地 弘和	2012(平成24)年4月1日 ※設立時	公認会計士・税理士・陰地会計事務所 所長

役 職	氏 名	就任日	所在地
会計監査人	RSM清和 監査法人	2013(平成25)年6月18日	神戸市中央区海岸通8番神港ビルヂング2

5. 評議員会・理事会の開催

(1) 評議員会

- ア 2023年度定時評議員会 2023年6月21日開催
- | | |
|-------|-----------------------|
| 第1号議案 | 評議員に関する件 |
| 第2号議案 | 理事に関する件 |
| 第3号議案 | 役員報酬に関する件 |
| 第4号議案 | 2022年度財務諸表等及び財産目録承認の件 |
- イ 2023年度臨時評議員会 2023年12月13日開催
- | | |
|-------|----------------------|
| 第1号議案 | 甲南加古川病院事業の譲渡に関する件 |
| 第2号議案 | 甲南医療センター隣地の土地購入に関する件 |

(2) 理事会

- ア 2023年度第1回理事会 2023年6月6日開催
- | | |
|-------|---------------------------------|
| 第1号議案 | 評議員に関する件(評議員会決議事項) |
| 第2号議案 | 理事に関する件(評議員会決議事項) |
| 第3号議案 | 役員報酬に関する件(評議員会決議事項) |
| 第4号議案 | 人事に関する件 |
| 第5号議案 | 2022年度事業報告書及び附属明細書承認の件 |
| 第6号議案 | 2022年度財務諸表等及び財産目録承認の件(評議員会決議事項) |
| 第7号議案 | 2023年度定期昇給の件 |
| 第8号議案 | 2023年度夏期賞与支払いの件 |
| 第9号議案 | 2023年度定時評議員会招集の件 |
- イ 書面理事会 2023年7月11日付提案
- | | |
|-------|---------------------|
| 第1号議案 | 2023年度会計監査人報酬に関する件 |
| 第2号議案 | 代表理事、常務理事及び常任理事選定の件 |
| 第3号議案 | 退任理事への慰労金支払いの件 |
- ウ 2023年度第2回理事会 2023年11月29日開催
- | | |
|-------|--------------------------------|
| 第1号議案 | 甲南加古川病院事業の譲渡に関する件(評議員会決議事項) |
| 第2号議案 | 甲南医療センター隣地の土地購入に関する件(評議員会決議事項) |
| 第3号議案 | 2023年度冬期賞与支払いの件 |
| 第4号議案 | 2023年度臨時評議員会招集の件 |
- エ 2023年度第3回理事会 2024年3月13日開催
- | | |
|-------|---------------------------|
| 第1号議案 | 2023年度経常収支及びキャッシュ・フロー見込の件 |
| 第2号議案 | 2024年度事業計画(収支予算)の件 |
| 第3号議案 | 2024年度資金調達及び設備投資計画の件 |

6. 病床数、標榜科目、職員数

2024年3月末日の病床数、標榜科目、職員数は、下表のとおりとなっております。

施設名	届出病床	稼働病床	標榜科目	職員数
甲南医療センター	461	419	循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、	921 (43)
			糖尿病・内分泌・総合内科、腎臓内科、	
			リウマチ内科、脳神経内科、	
			腫瘍・血液内科、緩和ケア内科、放射線科、小児科、	
			皮膚科、精神科、消化器外科、乳腺外科、	
			(心臓血管外科)、呼吸器外科、整形外科、	
			リハビリテーション科、脳神経外科、眼科、	
			耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、形成外科、	
			麻酔科、歯科・口腔外科、救急科、病理診断科	
六甲アイランド甲南病院	198	198	循環器内科、消化器内科、内科、脳神経内科、	351 (40)
			腎臓内科、放射線科、小児科、皮膚科、神経科、	
			外科、(心臓血管外科)、(呼吸器外科)、整形外科、	
			リハビリテーション科、(脳神経外科)、眼科、	
			耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、(形成外科)、	
			(麻酔科)、歯科・口腔外科	
甲南加古川病院	199	118	内科、循環器内科、脳神経内科、リウマチ科、	182 (19)
			(外科)、整形外科、皮膚科、(眼科)、(耳鼻咽喉科)、	
			リハビリテーション科、放射線科、麻酔科	
甲南介護老人保健施設	—	—	定員：入所80名、通所30名	65 (10)
甲南訪問看護ステーション	—	—	訪問看護	13 (1)
甲南居宅介護支援事業所	—	—	居宅介護支援	3
事務局	—	—		22 (1)
合計	858	735		1,557 (114)

()診療科は休診中。 ()職員数は非常勤・再掲。

第2. 各施設の概要

1. 甲南医療センター

基本 理念

【理念】

人の手で接する最善の医療を追求し実現します。
やがて創設100年を迎える基幹病院として公益と継続を重視し、
全職員にて新たな歴史を紡ぎ、誇り高き病院を創ります。

【行動指針】

1. 心技一体で心の深くに届く高質の医療を実践します。
2. 不断の救急医療を全職員で全うします。
3. 地域の医療機関、大学、行政との連携を強化し、総合力のある人材を育成し、絶えず進化する医療を構築します。
4. 最新機器を整備し、緑と静穏な療養環境のもと、安心、安全なチーム医療を実現します。
5. 患者・家族の尊厳を守り、個人情報厳守します。

院長 挨拶



具 英成 院長

甲南医療センターは、1934年(昭和9年)に旧甲南病院として創立され、以来、公的医療機関のない神戸市東灘区の地域医療を担い、営利本位に陥らず、全ての患者が名医の治療や手術が受けられる、患者本位の医療を追求する病院を目指して参りました。次の100年に向けて、これからも地域の皆様のご期待に添えるよう、最高の医療を届けるためにどのように変貌したか、引き続きご紹介いたします。

新たな創生を目指して2019年10月にⅠ期工事を完工し、脳神経外科、泌尿器科、循環器内科、小児科、産婦人科などの診療科の充実を図り、380床の急性期病院として稼働しました。2022年2月にはⅡ期工事を完工し、461床の急性期病床を有する地域屈指の総合病院として装いを新たにしました。

2022年のグランドオープンでは、旧甲南病院発祥の地である鴨子ヶ原に最新最高の設備を備えた新病院が完工しました。このようなハード面の充実とともに、優秀な医療人材を集約し育成することを通じて、地域へのさらなる貢献を目指します。

近年、医療では遺伝子工学、AIやロボットなど様々な技術革新が進んでいます。しかし、技術が高度になり時代が変われど、人の手で接する心の深くに届く医療を実践すべく、職員一同が力を合わせ新病院へのご期待に沿えるよう臨んで参ります。

甲南会は心技一体、質の高い医療、人の手で心の深くに届く医療を今後も間断なく実践して参ります。

また、本会は2020年度からは公益財団法人として装いを新たに地域医療に邁進しています。神戸市の東部において急性期医療を担う甲南医療センター、回復後日常生活へ戻るための支援を担う六甲アイランド甲南病院、2病院がシームレスに連携して役割分担をさらに強めて、地域の皆様の健康を守ります。

地域の皆様から高い評価が頂けるよう、誇り高き病院創りを進めて参ります。

皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

特色

東灘区には、公的医療機関がなく、古くから地域医療を旧甲南病院が担っていました。2019年には、甲南医療センターに改称し、急性期医療に特化した施設に生まれ変わり、2022年春には、全ての施設・設備が整い、次の100年に向けた新たな歴史が始まりました。また、ハード面だけでなく、高台立地を凌駕する高度な医療水準と人の手で接する温かい心を兼ね備えた最善の医療を推進し、地域の皆様に最高の医療を実現してまいります。

甲南医療センターは、これからもすべての人に健康と福祉をお届けしながら、住み続けられる街づくりに貢献して参ります。

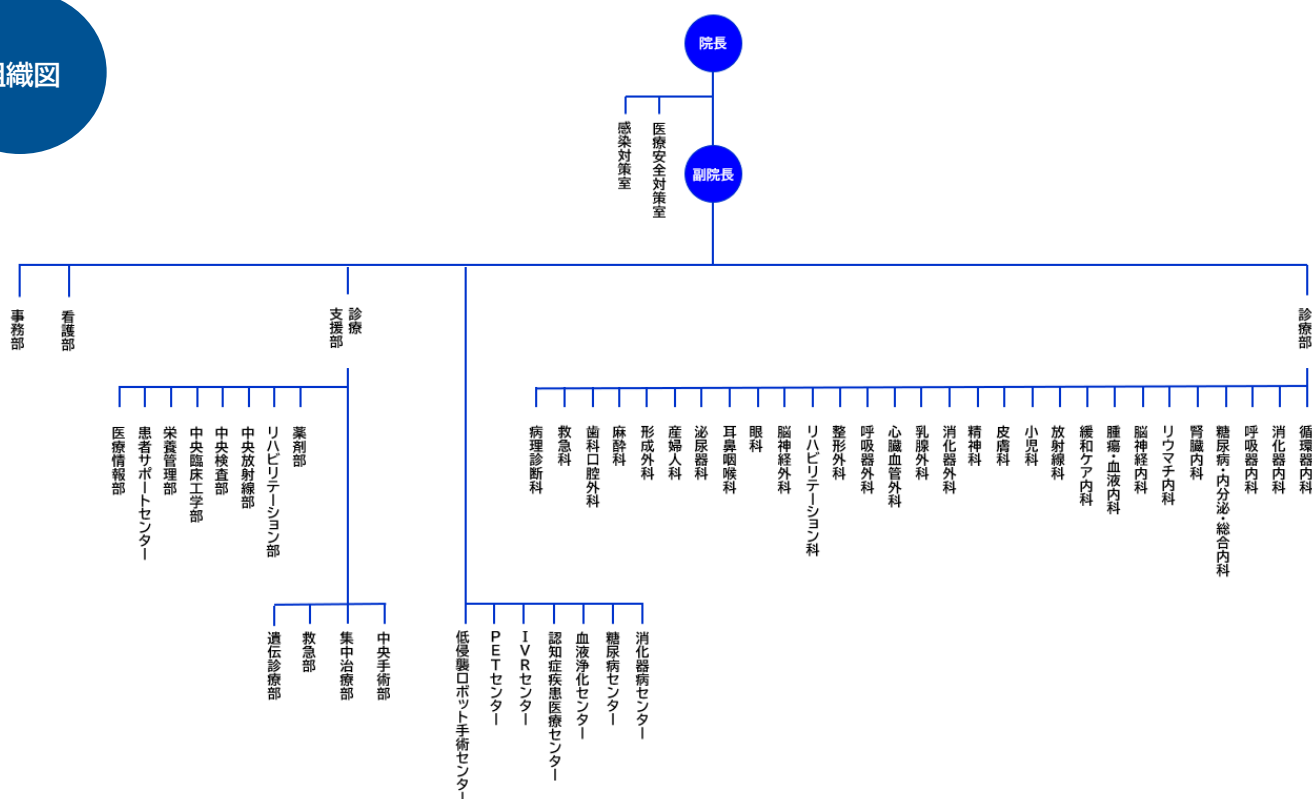
沿革

1934年(昭和9)	病院開設(118床)、6月17日に開院式、看護婦養成所開設
1972年(昭和47)	西館増築、病床数277床へ
1979年(昭和54)	神戸市二次救急病院指定
1982年(昭和57)	南館新設、病床数298床へ
1984年(昭和59)	開院50周年記念式典
1987年(昭和62)	東館新設、病床数400床へ
1995年(平成7)	阪神・淡路大震災で被災
2004年(平成16)	医師臨床研修病院指定
2006年(平成18)	病院機能評価(Ver.4)認定
2009年(平成21)	DPC適用病院
2011年(平成23)	病院機能評価(Ver.6)認定
2013年(平成25)	新甲南病院建設事業(Konan事業ビジョン2020)開始
2015年(平成27)	緩和ケア病棟設置、病床数380床へ
2016年(平成28)	病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)認定
2019年(令和元年)	甲南医療センター建設Ⅰ期工事完成
2020年(令和2)	地域医療支援病院認可
2021年(令和3)	病院機能評価(3rdG:Ver2.0)認定
2022年(令和4)	甲南医療センター建設Ⅱ期工事完成、病床数461床へ

概要

●所在地	神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
●TEL	078-851-2161
●創立	1934年6月17日
●土地面積	21,489,57㎡
●建物	本館 地下1階地上7階 延29,204.87㎡ 南館 地下2階地上3階 延 5,986.97㎡ 東館 地下1階地上3階 延 3,915.72㎡ 管理棟 地上5階 延 3,751.98㎡
●病床数	461床(一般病床)
●職員数	医師165名、看護部門459名、診療技術部門165名 事務部門132名 計921名(2024年3月31日現在)
●診療科目	循環器内科/消化器内科/呼吸器内科/糖尿病・内分泌・総合内科/ 腎臓内科/リウマチ内科/脳神経内科/腫瘍・血液内科/ 緩和ケア内科/放射線科/小児科/皮膚科/精神科/消化器外科/ 乳腺外科/心臓血管外科/呼吸器外科/整形外科/ リハビリテーション科/脳神経外科/眼科/耳鼻咽喉科/泌尿器科/ 産婦人科/形成外科/麻酔科/歯科口腔外科/救急科/病理診断科 消化器病センター/糖尿病センター/血液浄化センター/ 認知症疾患医療センター/IVRセンター/PETセンター/ /低侵襲ロボット手術センター
●センター	
●外来診療	受付時間：8時30分～11時30分 診療時間：9時00分～17時00分
●入院基本料施設基準	急性期一般入院料Ⅰ(406床)/緩和ケア病棟入院料Ⅰ(22床)/ 特定集中治療室管理料3(8床)/小児入院医療管理料3(25床)
●救急告示	有(二次救急)
●施設認定	地域医療支援病院
●医師臨床研修	基幹型臨床研修病院(定員8名)

組織図



(1)手術支援ロボット「ダヴィンチXi」

2023年9月に手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を甲南医療センターに導入した。

ロボット支援手術(ダヴィンチ手術)は、低侵襲手術である内視鏡外科手術(腹腔鏡手術・胸腔鏡手術)の限界点を克服する機能がある。従来の内視鏡外科手術では、直線的な鉗子のため可動域に制限があり、骨盤の底や胸腔内などの狭い空間では骨や臓器に当たり自由な操作ができないことがあったが、ロボット支援手術では、その関節機能により最適の方向に切開や剥離を進めることができる。

また、上記機能に加え、高精細の3D画像、拡大視効果等により安全に手術を進めることができ、術者の負担を軽減する手術を可能としている。

加えて、通常の内視鏡外科手術同様に患者の体に小さな穴を開けて行う手術であるため、より精緻な手術が可能で、開腹術や通常の腹腔鏡手術に比べ、術中の出血量が極めて少ない低侵襲手術となるため、術後の痛みや合併症を減らす、入院期間が短くなるなど、患者にとってのメリットもある。

甲南医療センターでは、消化器外科・産婦人科・泌尿器科で「ダヴィンチXi」を用いた手術を行っている。

【2023年度実績(2023年9月～2024年3月)】

消化器外科…17件

産婦人科…20件

泌尿器科…5件

今後は、手術対象の術式や対応診療科の拡大を視野に検討を進めていく。



(2)全身用エックス線CT装置

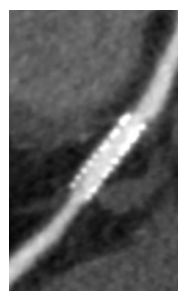
Canon社から2023年11月に発売された最上位モデルCT装置『Aquilion ONE / INSIGHT Edition』を関西第1号機として2024年1月に甲南医療センターに導入した。

入口部となるガントリ開口径が10cm大きくなり、圧迫感が軽減され、AI技術を応用した画像再構成と被ばく低減化、超高速回転(0.24秒)と1回転で160mm幅320枚の断層画像撮影により、安定した綺麗な画像で従来の形態診断に追加して、機能診断が可能になった。

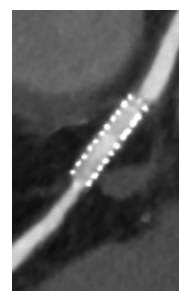
特に、超高速回転撮影により、心臓CT検査の画像が高心拍でも安定した画像の提供ができるようになり、循環器や脳疾患領域の臨床診断に役立てている。



【参考】撮影画像の比較(血管、ステントの一部)



旧システム



新システム

▶ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院 患者数	2022	341	350	329	319	316	338	332	341	341	355	346	331	337
	2023	319	351	348	355	381	352	342	363	336	373	364	371	355
1日平均 外来 患者数	2022	821	844	787	827	785	875	854	854	872	835	831	860	837
	2023	850	853	823	878	819	843	846	851	866	867	864	876	853
新入院 患者数	2022	919	1,028	965	957	941	1,024	986	1,031	1,062	1,008	965	1,091	998
	2023	1,004	1,093	1,099	1,132	1,172	954	1,081	1,079	976	1,056	988	987	1,052
中央手術室 における 手術件数	2022	431	417	462	408	445	438	464	455	466	455	442	502	449
	2023	435	433	466	417	457	400	463	473	399	427	417	428	435

診療科紹介

▶ 循環器内科

▶ これからの展開

六甲アイランド甲南病院時代より365日24時間循環器疾患の受け入れを行ってきた。甲南医療センター開院後、更に救急体制を強化し、断らない救急を実践しており、2023年度は年間のPCI件数も350件を超え、また緊急でのPCIも年間100件と神戸市でも有数の症例数の多い病院となっている。循環器疾患は虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、末梢動脈疾患、心不全などがあり緊急を要する疾患が多く迅速な対応が不可欠でありクリニック、近隣の病院とは循環器疾患のホットラインを設け、スムーズな受け入れを行っている。SNSや病院主催のWEB会議といったICTを活用した病院連携にも取りくんでいる。救急隊とは密接な協力体制を取っている。心不全、心エコーを専門とするスタッフ、女性スタッフが加わり心不全診療、腫瘍循環器、女性胸痛といった分野にも今後展開していく。

▶ 得意領域の深化

カテーテル治療、不整脈、心エコー、心不全などの専門医が多数在籍しており、すべての循環器疾患に対応している。虚血性心疾患に対しては、従来のステント治療だけでなくロータプレーター、DCB(Drug-coated Balloon)による治療を行っている。また、重症大動脈弁狭窄症に対しては、バルーンによる治療(BAV)を、心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍症など頻脈性不整脈に対しては積極的にカテーテルアブレーション(ABL)を行っている。心不全治療に関しても最新のエビデンスに基づいた加療、心臓リハビリを行い、六甲アイランド甲南病院との病病連携、クリニックとの病診連携も行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2022	45.9	47.4	42.6	36.9	33.6	40.9	44.8	53.6	46.8	51.3	47.9	51.6	45.2
	2023	43.9	40.8	34.3	40.3	37.9	36.0	38.2	46.9	41.0	50.7	50.0	40.4	41.7
1日平均 外来患者数	2022	64.3	63.8	57.9	62.8	59.8	65.5	66.8	66.8	68.8	69.3	66.4	62.2	64.5
	2023	68.2	65.3	60.9	62.6	59.7	64.4	65.0	68.5	70.0	73.3	72.7	68.4	66.6
新入院患者数	2022	106	121	93	101	75	105	118	125	107	119	117	132	109.9
	2023	115	125	110	123	108	105	111	134	112	119	125	102	115.8

▶ 消化器内科

▶ これからの展開

- ①スタッフのワークライフバランスの改善と様々な疾患・病態に対応できる診療体制を両立するため、スタッフの増員が急務である。
- ②外来枠がすでに飽和状態であり、新たな紹介患者を受けていくには、病診連携を効率よく行える体制づくりが必要である。
- ③初期研修医、後期専攻医の研修を積極的に受け入れ育成する。
- ④大学や連携施設と人や技術の交流をし、レベルアップを目指す。
- ⑤コメディカルの内視鏡技士資格取得者も増やしていきたいと考えている。

▶ 得意領域の深化

- ①早期消化管がんの内視鏡診断治療：正確な術前範囲診断。癒痕症例など困難例にも対応。部位に応じて全身麻酔下に施行。症例に応じて消化器外科との合同手術も施行。確実かつ低侵襲な治療の実現。
- ②胆膵系内視鏡検査・治療：熟達した技術が必要とするEUS、ERCP関連手技を施行。術後再建腸管症例に対してもダブルバルーン小腸内視鏡を使用して処置を施行。
- ③緩和的治療としての内視鏡手技：消化管ステント留置や胆管ステント留置、EUS-CPN(EUS下腹腔神経叢ブロック)など、症状緩和目的の治療内視鏡を施行。
- ④消化管機能性疾患の診断治療：特に食道アカラシアは神戸大学と連携し食道運動機能評価しPOEM施行。
- ⑤炎症性腸疾患の診断治療：厚生労働省治療指針に基づいた治療。新規認可薬剤による治療にも対応。神戸大学との連携。
- ⑥慢性肝疾患の診断治療：ウイルス性肝炎、MASLD/MASH(脂肪性肝疾患)、自己免疫性肝疾患、肝臓癌など肝疾患の診断治療に対応。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	40.3	38.9	25.5	34.2	26.9	44.2	39.1	44.7	42.5	40.3	35.7	40.7	37.8
	2023	40.0	40.8	40.9	41.9	46.3	37.0	41.1	34.3	31.8	39.8	40.1	30.4	38.7
1日平均外来患者数	2022	61.6	64.3	60.9	57.9	55.0	61.7	65.6	60.8	64.2	59.6	61.3	65.1	61.5
	2023	61.0	59.4	56.2	62.2	57.0	58.9	61.3	61.6	62.0	58.3	62.1	62.2	60.2
新入院患者数	2022	138	123	106	105	100	147	123	144	135	118	113	139	124.3
	2023	127	119	120	123	143	116	138	113	91	103	117	87	116.4

▶ 呼吸器内科

▶ これからの展開

呼吸器内科は2020年4月に開設し、呼吸器専門医2名で診療を開始した。神戸大学呼吸器内科の関連病院では、兵庫県内で最も東に位置する病院である。長らく呼吸器内科の専門医を擁する総合病院がなかったエリアであり、神戸市東灘区周辺地域の患者や、地域医療を行っている先生方のご要望に応じていけるように取り組んでいきたい。2022年度の増床に伴い、より多くの方の診療を行っていききたいと考えている。2024年4月より指導医2名、専門医2名、専攻医2名の6名体制となり、外来、入院ともフレキシブルに対応できており、近隣施設からの紹介も増えてきている。

▶ 得意領域の深化

肺炎や結核・非結核性抗酸菌症などの呼吸器感染症、肺がん、間質性肺炎、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)など幅広く診療を行っている。2024年4月からは常勤の呼吸器内科スタッフが計6名となった。また、神戸大学呼吸器内科からの応援医師の協力も得て、より充実した診療体制と気管支鏡などの検査体制を整えた。看護師や薬剤師とも協力し、重症喘息の治療にも力を入れている。呼吸器外科や放射線科との連携もできており、様々な診断・治療の選択肢をご提供できるものと考えている。救急搬送される肺がんや間質性肺炎急性増悪の患者も増えており、救急部との協力関係を強化していく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	7.7	7.5	8.0	5.3	5.7	9.3	7.1	8.9	9.0	10.6	9.1	10.2	8.2
	2023	13.3	14.2	15.6	18.5	20.1	19.2	21.8	22.5	19.2	22.8	20.8	21.5	19.1
1日平均外来患者数	2022	12.6	13.6	12.9	13.0	11.8	14.3	14.1	14.1	15.3	14.5	13.1	13.1	13.5
	2023	16.1	19.3	16.6	19.0	16.2	19.5	18.7	19.6	21.2	19.8	20.1	20.7	18.9
新入院患者数	2022	14	27	24	15	16	22	15	18	25	22	17	25	20.0
	2023	38	45	41	50	45	43	56	47	37	48	44	41	44.6

▶ 糖尿病・内分泌・総合内科

▶ これからの展開

糖尿病患者さんは現在も増え続けているが、その検査・治療に関しては着実に進歩を遂げてきている。次々と新たな薬剤が登場し、テクノロジーを駆使した新たな機器によって糖尿病診療が変わろうとしている。持続血糖モニターCGM/FGM、持続皮下インスリン注入CSII、その利点を合わせたSAP治療等、これらの機器を使用することにより、患者の状態を詳細に解析し適切に対応することができるようになってきた。当科を受診された患者に対しても、最新の情報を提供し、適切に対応することによって、今まで以上に細かく病態把握を行い、その患者に合った治療法の選択を行えるように努めている。

▶ 得意領域の深化

当院では糖尿病センターとして、腎臓内科、循環器内科、眼科、脳神経外科、整形外科、形成外科等の糖尿病に関連する多くの診療科と連携をとることにより、糖尿病合併症に対してもきめ細やかな対応に取り組むことが可能となっている。また日本糖尿病学会指導医4名、専門医5名に加えて、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、公認心理師を始めとする医療スタッフによるチーム医療によって糖尿病診療の質を上げるよう努力している。入院期間中でのスタッフからの教育指導や、外来での糖尿病療養指導、栄養指導、薬剤指導、フットケア指導等で効果を上げている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	22.8	23.9	24.4	22.6	25.2	22.3	20.8	24.7	29.5	25.5	19.3	20.3	23.5
	2023	17.1	22.5	20.5	23.9	31.5	32.1	17.3	22.8	18.8	22.5	27.9	30.7	24.0
1日平均外来患者数	2022	51.6	53.5	49.8	56.2	50.7	54.8	54.0	52.5	57.6	55.9	55.6	52.7	53.7
	2023	51.6	52.1	52.0	55.5	50.2	53.7	54.8	53.9	56.5	53.8	55.8	55.1	53.8
新入院患者数	2022	42	56	51	53	50	49	46	66	90	44	41	42	52.5
	2023	38	55	49	67	73	44	35	45	38	49	53	47	49.4

▶ 腎臓内科

▶ これからの展開

蛋白尿から維持透析までの一貫した腎臓病診療を継続・発展させるため、まずは病診連携を一層密にしていくことが重要と考えている。患者にも腎臓病を理解してもらい、病気と上手に付き合ってもらうため、腎臓病教室の開催も続けていきたい。今後は慢性腎臓病教育入院を増やせるように病棟の体制を充実させていきたいと考えている。

▶ 得意領域の深化

透析導入患者の高齢化が進み、血液透析治療を開始しても家に帰ることができず、入院透析を継続せざるを得ない例が増えている。一方、在宅治療である腹膜透析は、高齢者であっても家族や訪問看護師のサポートで治療が行える場合がある。高齢であるからといって諦めずに、腹膜透析の説明を行い、腹膜透析導入を増やすようにしている。訪問看護ステーションのスタッフと一緒に勉強会を繰り返し行って、知識・情報を共有して連携を保つようにしている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	17.6	21.2	16.0	18.5	20.4	18.8	15.9	17.2	16.8	17.9	17.2	16.2	17.8
	2023	19.4	24.5	21.5	22.5	21.9	19.7	13.4	19.1	19.2	24.7	21.3	25.5	21.1
1日平均外来患者数	2022	71.1	74.6	64.4	70.8	64.6	71.8	69.7	67.5	71.2	74.8	66.3	66.4	69.5
	2023	69.2	70.9	64.0	72.4	66.8	67.7	65.0	66.2	66.6	72.9	66.8	68.6	68.1
新入院患者数	2022	31	47	34	35	40	39	30	38	43	38	40	44	38.3
	2023	48	41	40	59	47	37	42	41	42	45	34	43	43.3

▶ 脳神経内科

▶ これからの展開

甲南医療センター自体が東灘の地域に根ざした救急医療に力を入れており、それに伴い脳神経内科も脳卒中や神経救急に診療の重点を移し、フットワークの軽い脳神経内科を目指している。また、医師の働き方改革が叫ばれており、スタッフの増員にともない脳神経内科では主治医制からチーム制へ移行し、その結果として医師一人ひとりの負担の軽減を目指している。そのため毎日朝夕にカンファレンスを行い、全入院患者を全スタッフで把握し、質の高い医療の維持に努めている。

▶ 得意領域の深化

脳卒中診療に力を入れており、脳神経外科とタッグを組んで質の高い診療を行うことを目指している。そのため、に2021年4月より脳神経外科と週1回合同カンファレンスを開催し、症例や最新の治療法・ガイドラインの共有を行い、診療科に関わらず標準的な治療を患者に提供できる体制を構築している。また、前述とは別にリハビリカンファレンスも行い、リハビリテーション科も含め、多職種による円滑なチーム医療をようになっている。さらに、2022年1月からは毎週火・木・金曜日の夜間に脳神経内科もしくは脳神経外科医が必ず当直を行い、断らない脳卒中診療を目指し、血栓溶解療法や血栓回収療法の件数も増加している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	12.5	15.9	15.5	13.3	13.4	18.4	14.7	15.3	15.2	16.0	11.0	12.6	14.5
	2023	14.9	23.1	23.7	17.5	19.0	16.9	14.5	19.7	17.2	21.6	21.3	16.0	18.8
1日平均外来患者数	2022	27.4	27.7	27.3	28.9	27.5	29.1	27.3	28.4	30.0	28.5	28.4	28.8	28.3
	2023	31.6	30.0	31.6	33.7	30.7	33.5	30.1	31.3	29.6	29.8	27.7	32.5	31.0
新入院患者数	2022	33	30	32	32	27	39	30	30	31	25	21	29	29.9
	2023	40	41	36	41	42	24	32	27	23	30	24	37	33.1

▶ 腫瘍・血液内科

▶ これからの展開

分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の出現により、がんのできた臓器に関わらない臓器横断的治療が広まっている。血液領域においても二重特異性抗体といった新たな作用機序の薬剤が使用可能となっており今までに経験することの少なかった副作用に対する理解が必要不可欠となっている。

また、がんの早期発見、化学療法および支持療法の進歩に伴いがん患者の「治療と仕事の両立」が重要視されてきている。外来・入院での化学療法スケジュールの柔軟な対応が必要とされる。本人や周囲の方々の疾患、治療、副作用の理解も必要である。医療関係者は患者の考え方、生活環境、職場環境などの背景を理解しておく必要がある。

上記のことから、これまで以上に多職種によるサポートが重要視されていく。医療従事者間でコミュニケーションをしっかりと取り包括的なサポートを行っていく。

▶ 得意領域の深化

がんの医療では遺伝子情報にもとづく個別化治療が進んできている。免疫チェックポイント阻害薬の併用など治療の選択肢も増えてきている。標準的治療が終わってからも遺伝子検査で効果が期待できる薬剤の選択ができることもある。遺伝子検査によって効果が期待できる薬剤が見つかる可能性がある反面、本人が望むような明確な結果が得られない場合や、自分以外に家族が疾患に罹りやすいかどうか予測される場合がある。そのため、検査には十分な説明が必要であり神戸大学医学部附属病院で連携を密にして遺伝子パネル検査を活用している。

新規治療薬、支持療法の進歩により高齢者でも抗がん剤治療の適応が広がり、予後の改善も望めるようになってきている。幅広い年齢層にしっかりと情報提供を行い適切な治療が受けられるように啓蒙を行っていく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	26.2	24.7	22.5	17.2	18.3	18.9	16.6	16.9	15.9	22.3	18.4	18.9	19.7
	2023	18.3	13.8	13.9	15.7	26.0	22.4	20.3	16.9	19.8	22.2	23.3	23.8	19.7
1日平均外来患者数	2022	36.7	38.7	37.9	38.6	34.3	42.3	39.5	39.5	42.0	38.0	39.7	39.0	38.8
	2023	39.5	35.4	39.1	39.7	36.3	37.7	37.3	40.0	42.1	39.6	41.8	41.3	39.2
新入院患者数	2022	54	59	67	51	59	53	49	53	50	55	45	56	54.3
	2023	50	42	52	59	84	45	45	48	35	61	56	61	53.2

▶ 緩和ケア内科

▶ これからの展開

新病院となり、さらにactiveとなっていく病院に合わせ、緩和ケア内科、緩和ケア病棟一丸となり、さらにAcute Palliative Care Unit(急性期緩和ケア病棟)として、入院が必要な苦痛を抱えたがん患者の受け入れを強化していきたい。
また、高度な専門的緩和ケアの提供を行うべく、日本トップクラスの治療・ケアが行えるようにスタッフのスキルアップも行っていきたい。

▶ 得意領域の深化

甲南医療センター緩和ケア病棟の強みは「緊急対応」と「地域連携」と言える。緩和ケア病棟の「神戸市東部の住民が安心して療養できる環境を質の高いレベルで提供していく」というミッションを共有し、休日・夜間問わず、在宅療養されている患者に、入院が必要となった場合には受け入れを行っている。(事前に入棟面談受診後の患者に限る)
また、なるべく患者がご自宅で苦痛なく過ごせるよう、訪問診療を行う医療機関、訪問看護ステーション、ケアマネージャーらと綿密な連携をとっている。この綿密な連携により速やかな入院受け入れが可能となっている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2022	21.0	17.1	17.2	18.2	15.8	18.2	16.2	13.4	13.5	14.6	16.9	18.2	16.7
	2023	11.7	15.9	14.7	17.5	16.0	15.2	17.9	16.5	16.1	15.1	17.2	18.1	16.0
1日平均 外来患者数	2022	1.4	1.2	1.4	0.8	1.3	1.4	1.4	1.6	2.0	1.8	2.7	2.1	1.6
	2023	0.8	1.6	1.2	1.2	1.2	0.9	1.3	0.8	0.9	1.5	0.8	0.7	1.1
新入院患者数	2022	28	25	26	21	26	30	23	25	25	23	29	27	25.7
	2023	18	23	36	27	26	22	18	24	30	16	23	25	24.0

▶ 放射線科

▶ これからの展開

診断専門医6人、専攻医3人の計9人が在籍している。病院機能の統合や遠隔画像診断技術の発達に伴って、六甲アイランド甲南病院の人員を甲南医療センターへ集約し、甲南会2病院の画像診断業務を全て担っている。これによって読影業務の効率化のみならず、知識の共有や他科の医師・パラメディカルとのコミュニケーションを活性化が得られ、これまで以上の医療水準を提供できるよう努めている。また、2019年秋より、タブレット端末(SYNAPSE ZERO、富士フィルムメディカル®)を用いた遠隔画像診断も導入している。甲南医療センターの掲げる「24時間365日断らない救急」を後押しできるよう、夜間・休日を問わず読影可能な体制としている。

▶ 得意領域の深化

近年、人工知能(Artificial Intelligence:AI)の技術がますます進歩している。一時は「医療へのAIの導入により放射線科医が不要になる」といった話も囁かれていた。しかし、CT/MRIを含めた最新の医療技術に触れる機会の多い放射線科医にとってAI技術との親和性は高く、現在では「放射線科こそが医療へのAI導入の先進的・中心的役割を果たす」という流れへ変化しつつある。AI技術の導入は大学病院レベルのみならず、甲南医療センターにおいても徐々に進んできている。(CTコログラフィーでのポリープ解析、肝細胞癌に対するTACE時の腫瘍血管解析など)

AIと共存し、これらの技術を駆使して、将来的にもさらに精度の高い医療を提供できるようにする。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2022	0.5	0.6	0.4	0.6	0.3	0.5	0.7	0.1	0.3	0.5	0.4	0.2	0.4
	2023	0.0	0.4	0.7	0.2	0.3	0.5	0.4	0.7	0.4	0.5	0.1	0.1	0.4
1日平均 外来患者数	2022	7.9	9.3	8.3	7.4	6.3	9.0	7.6	9.6	9.3	7.8	8.5	8.1	8.3
	2023	8.9	7.7	8.1	9.3	7.6	7.8	7.4	7.7	9.4	9.3	7.8	7.8	8.2
新入院患者数	2022	4	6	5	5	3	2	5	1	4	3	2	4	3.7
	2023	1	2	5	4	1	3	4	6	2	2	1	0	2.6

▶ 小児科

▶ これからの展開

東灘区・灘区で唯一の小児病棟を持つ病院として、入院が必要な子どもを受け入れている。年間に約1,000～1,300人の入院がある。また、神戸市の小児二次救急輪番病院として、神戸市全体から救急車や急病の子どもが集まって来る。小児病棟は25床で、感染症の多い小児の疾患に対応できるよう個室を多く準備している。小児の内科疾患だけでなく、耳鼻科や整形外科、形成外科などの手術が必要な子どもたちも入って来るので病棟には病棟保育士を配置し、子どもの年齢に応じた療養支援を行っている。新生児室は保育器が4台あり、低出生体重児や、生直後の新生児のトラブルに対応できるようになっている。

▶ 得意領域の深化

小児科医は感染症などの急性疾患全般に十分な経験を持つだけでなく、それぞれが専門分野を持ち、専門的な診療を行っている。現在、アレルギー学会専門医が2名(うち1名が指導医)、頭痛専門医が1名在籍しており、アレルギー外来、腎外来、頭痛外来などを開設している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2022	7.8	12.0	10.9	13.6	14.3	16.5	13.1	13.0	13.5	14.4	13.4	14.9	13.1
	2023	14.6	19.1	23.5	19.9	17.0	19.6	16.7	16.5	18.1	14.4	13.2	15.2	17.3
1日平均 外来患者数	2022	20.7	23.8	21.4	29.0	27.0	26.9	24.1	21.3	24.7	24.8	24.6	25.6	24.5
	2023	23.6	25.6	27.5	26.9	26.9	24.9	26.8	26.8	27.4	23.0	24.0	28.1	26.0
新入院患者数	2022	65	87	75	99	102	104	84	89	90	91	96	110	91.0
	2023	103	124	125	128	129	110	104	115	106	92	84	97	109.8

▶ 皮膚科

▶ これからの展開

乾癬、アトピー性皮膚炎の治療薬である生物学的製剤が使用できるようになった。生物学的製剤は、乾癬、アトピー性皮膚炎でそれぞれ深く関わっているIL(インターロイキン)の働きを抑えることで症状を改善させる薬剤であるが、これまでの治療(外用剤や内服薬、紫外線治療など)では十分な効果が得られなかった方が対象となる。残念ながらすべての患者に適応があるわけではないが、当院でも積極的に導入を行っている。クリニックなどからの生物学的製剤導入を目的とする紹介が今後も増えていくと考えられる。

▶ 得意領域の深化

皮膚の感染症、帯状疱疹(ヘルペス)などの患者をはじめ、入院加療も積極的に実施し、皮膚腫瘍の手術や、薬疹、接触皮膚炎などのアレルギー疾患に対するパッチテスト、皮膚テスト等のアレルギー検査も行っている。乾癬や掌蹠膿疱症等に対する光線療法、陥入爪治療や尋麻疹、にきび(ざ瘡)、脱毛症などの皮膚症状についても対応している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2022	7.1	3.7	6.4	6.1	5.9	4.0	4.7	3.5	3.8	2.5	2.8	5.5	4.7
	2023	6.2	2.5	5.6	5.7	6.4	4.5	4.2	4.1	5.0	6.3	5.3	4.6	5.0
1日平均 外来患者数	2022	37.6	40.3	34.2	35.6	34.8	41.1	39.5	41.1	38.9	39.6	37.6	44.6	38.8
	2023	43.8	44.0	44.4	45.3	41.8	44.7	44.5	43.5	44.5	44.6	48.8	47.4	44.8
新入院患者数	2022	15	13	13	15	13	10	18	10	18	8	10	24	13.9
	2023	13	13	23	13	13	16	9	11	16	13	13	8	13.4
中央手術室に おける 手術件数	2022	11	13	14	7	10	7	12	8	8	15	8	14	10.6
	2023	13	12	13	8	7	8	12	13	10	11	13	18	11.5

▶ 精神科

▶ これからの展開

院内他診療科からの依頼を受け、外来診察や入院患者へのリエゾンチーム回診を行うのが主な業務内容だが、救急外来での対応など精神疾患の発症急性期に介入となるケースも少なくない。他科と連携を図りながら、総合病院の精神科として限られた資源の中でできる限りの対応を今後も行っていくが、単科精神科病院など精神科入院施設のある他科病院との連携を改めて強化していく。

▶ 得意領域の深化

当院の精神科リエゾンチームは精神科医1名、臨床心理士2名、看護師1名で構成されている。それぞれが様々な診療科との合同カンファレンスや頻回の病棟訪問などから情報を幅広く収集し精神疾患が疑われる患者への早期介入、詳細な病状変化の把握、迅速な治療対応の実践を目指している。病棟回診前のリエゾンチームカンファレンスでは各専門領域の視点から最適な介入方法について意見交換を行い、多職種ならではの複合的な解決策を今後も行っていく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 外来患者数	2022	6.3	7.6	7.5	9.2	9.4	9.4	10.2	8.7	8.4	8.3	8.7	9.3	8.6
	2023	9.4	10.5	9.0	8.9	9.2	10.4	10.0	11.2	10.9	10.3	10.1	10.1	10.0

▶ 消化器外科

▶ これからの展開

甲南医療センター消化器外科は特にがん診療に力を入れており、消化器内科、放射線科、病理診断科、緩和ケア内科などとも密に連携している。がん診療連携協議会を定期的に開催し、当院で推奨される方針を決定する。さらに、リハビリ科、栄養科とも協力し、患者の術前、術後の適切な管理を行っている。病棟でも看護部、薬剤部と多職種チームで患者の安心・安全につながる医療の実践に努めている。

救急医療にも力を入れており、24時間365日のオンコール体制で、地域の皆様に貢献できるようなシステム構築をしている。術後もリハビリが必要な場合には、他施設とも連携し患者やご家族の状況に応じたフォローアップができるよう調整し、大病院にはない小回りや温かみで、患者に満足していただけるよう務めている。

神戸東部、芦屋を中心とした地域に根ざし、住民の皆様に信頼を得られるよう、チーム一丸で診療レベル向上を図っている。

▶ 得意領域の深化

当科の手術は、およそ80%が腹腔鏡手術となっている。スタッフのうち4名が日本内視鏡外科学会技術認定医の資格を有しており、技術面でも高い質が担保されている。2023年からロボット支援下手術を導入し、直腸手術・脾手術を実施しており、今後は胃切除、鼠経ヘルニア手術も導入予定である。

また、食道外科専門医や肝胆脾外科高度技能専門医も在籍しており、高難度手術も実施可能な施設であることも特徴と言える。ロボット支援手術を中心とした低侵襲手術から、高難度手術まで幅広く実施できる数少ない施設であり、地域への貢献度を高めるべくこれからも研鑽に努めていく。

また、若手外科医の教育、指導にも力を入れており、将来の外科診療を支える人材育成を目指していく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2022	17.7	15.4	20.5	18.5	19.8	23.1	24.1	20.3	25.3	22.2	22.5	17.5	20.6
	2023	16.2	23.7	25.3	24.8	24.7	26.5	31.3	27.4	26.6	24.5	24.3	25.9	25.1
1日平均 外来患者数	2022	22.3	26.1	23.0	20.3	21.4	22.6	23.9	25.7	25.8	23.9	25.6	24.1	23.7
	2023	24.3	27.6	24.0	26.8	24.5	26.5	27.5	25.4	28.4	29.6	27.8	28.0	26.7
新入院患者数	2022	50	53	49	47	58	54	60	47	56	51	56	50	52.6
	2023	46	61	56	62	58	58	74	55	56	61	58	64	59.1
中央手術室に おける 手術件数	2022	48	42	51	32	46	43	50	47	56	46	51	50	46.8
	2023	35	53	47	46	51	44	52	51	40	49	45	48	46.8

▶ 乳腺外科

▶ これからの展開

乳腺専門医2名、乳腺専門医を目指す若手医師1名の3人体制で、乳癌をはじめとする乳腺疾患全てに対応可能となっている。手術は形成外科の協力で、同時・異時再建、人工物あるいは自己組織を用いた再建術、産婦人科との協力で、遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する予防的乳房切除、卵巣切除いずれにも対応している。また、腫瘍内科、放射線科の協力のもと、術前、術後化学療法初め、集学的治療を駆使して初期乳癌の根治にあたっている。また、再発患者に対しても、積極的治療から緩和治療科との連携で終末期在宅療養に至るまで、あらゆる段階での治療を行っている。今後はコメディカルスタッフとともにプレストチームとして、あらゆる乳腺疾患患者に対処していきたい。

▶ 得意領域の深化

外来診療は手術日(火曜日)以外の毎日行い、基本的に診療は完全予約制として、患者サポートセンターを通じて、新規紹介、乳癌2次検診、セカンドオピニオンを全て受けている。また、乳癌地域連携バスを活用して、紹介医と地域の開業医の先生方と乳癌患者の連携診療を積極的に行っている。治療に関しては、頭皮冷却装置を導入し、化学療法患者の脱毛予防処置を積極的に進めている。また、腫瘍内科、産婦人科と協力して遺伝診療部を立ち上げ、遺伝性乳癌を中心に遺伝カウンセリングを行い、遺伝性腫瘍診療の院内体制づくりを進めている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	0.9	1.7	2.5	1.2	2.6	1.9	2.2	2.1	1.1	0.9	2.4	0.8	1.7
	2023	1.5	1.1	1.6	2.9	1.7	2.1	2.8	3.5	0.9	3.1	2.0	1.8	2.1
1日平均外来患者数	2022	16.8	14.9	15.4	15.5	13.3	16.3	16.6	15.7	16.0	14.0	14.6	15.5	15.4
	2023	12.7	15.0	13.5	14.1	14.5	12.1	14.7	17.8	14.5	14.7	16.5	14.7	14.6
新入院患者数	2022	6	11	11	8	14	14	12	7	6	8	10	6	9.4
	2023	8	10	6	15	9	9	14	15	11	22	16	11	12.2
中央手術室における手術件数	2022	5	6	7	5	10	7	9	7	4	6	5	4	6.3
	2023	4	5	6	7	8	5	10	8	4	9	5	3	6.2

▶ 整形外科

▶ これからの展開

昨年度は整形外科の手術件数が年間1,000件を超え、増加傾向にある。さらに救急患者のみならず、近隣クリニックや病院からの紹介患者も徐々に増えてきており、地域における当科の信頼度も高くなってきていると考える。

引き続きたくさんの方々の信頼と期待に沿えるよう、高度かつ先進的でありながらも、正確、安全で温かみのある医療を提供していきたい。

▶ 得意領域の深化

当科には高い専門性を持った整形外科医が集まっているが、昨年新たに腫瘍のスペシャリストが加わり、専門外来も始まっている。近隣のみならず、東の伊丹や尼崎にも整形外科領域の腫瘍を診断、治療できる医師はいないため、お困りの患者さんも多かったと考える。

今後、この領域の患者を当科に紹介していただけるよう、近隣にアピールしながら積極的に治療していきたい。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	51.6	54.2	52.2	54.4	61.0	53.6	52.5	50.7	46.5	58.5	64.0	46.9	53.8
	2023	42.8	45.1	47.1	37.7	46.1	42.6	41.5	47.5	46.1	47.9	50.1	55.8	45.9
1日平均外来患者数	2022	99.7	101.5	96.9	102.3	98.5	106.8	100.5	105.1	102.4	100.2	98.1	109.6	101.8
	2023	102.6	101.6	94.2	105.2	96.1	98.9	95.0	96.6	102.1	99.9	95.4	101.7	99.1
新入院患者数	2022	97	86	90	92	104	89	104	106	100	129	98	115	100.8
	2023	82	93	99	81	89	82	98	103	105	105	98	100	94.6
中央手術室における手術件数	2022	83	82	82	70	88	75	88	87	85	102	88	97	85.6
	2023	72	75	75	72	87	66	84	96	84	76	78	86	79.3

▶ 脳神経外科

▶ これからの展開

脳神経外科手術において、神経内視鏡や術中超音波検査および手術ナビゲーションなどのマルチモダリティを駆使して、より侵襲性の低い開頭術を実践する。また、脳血管障害の分野においては、その治療法の進歩により、これまで治療が困難であった部位に生じた脳動脈瘤に対して、ステント支援下でのコイル塞栓術や血流改変ステントを用いた脳動脈瘤治療などの従来の治療法より低侵襲かつ有効性の高い治療を展開していく。これまでと同様に敷居が低く受診しやすい脳神経外科でありながら、最先端の高度医療を提供していく。また、難度の高い治療を提供するに際し、十分な治療効果を納得していただき、かつ医療過誤を避けるために、患者や家族に丁寧に病状を説明し、理解を深めて頂いた後に治療を受けていただけるような『よくわかるやさしい脳神経外科』を引き続き目指していく。

▶ 得意領域の深化

脳卒中の外科技術指導医と脳血管内治療指導医を揃え、より安全かつ有効な治療を選択できるように多角的な視点から診断治療を行っている。実際の診療においては、3名の脳外科医と5名の神経内科医の計8名が連携して、当院の「断らない救急」診療に準拠した脳卒中診療体制を構築している（目下、脳卒中学会が脳卒中・循環器病対策基本法に基づいて押し進める脳卒中診療体制の構築において、当院はより専門性の高い施設基準である「一次脳卒中センター（PSC）コア」認定の取得に積極的に取り組み、脳神経外科医1名が脳血栓回収療法実施医資格（2024年4月認定）を取得し他2名は脳血管内治療指導医および専門医で構成されており、上記PSCコア施設認定が2024年6月頃には学会より認定される予定である）。

各々の専門性に応じた疾患別脳卒中診療を実践することで、より専門性の高い診断治療をさらに発展的に行っていく。また、脳腫瘍や頭部外傷に対しても、周術期にICUにおいて専任のスタッフとともに、神経集中モニタリングでリアルタイムに病状を把握し、病状の変化に即座に対応できるシステムを構築している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2022	25.8	23.2	21.0	12.5	10.9	11.6	15.0	14.2	17.1	17.6	20.3	17.0	17.1
	2023	18.6	17.7	13.5	16.3	17.3	13.1	14.1	19.0	14.1	16.3	12.2	14.8	15.6
1日平均 外来患者数	2022	9.7	8.9	8.2	7.8	7.9	8.3	8.9	8.3	9.4	8.1	7.9	10.0	8.6
	2023	11.0	8.9	9.1	8.4	8.5	10.0	9.1	10.7	9.3	9.3	10.0	10.1	9.5
新入院患者数	2022	27	25	28	24	19	22	31	26	34	33	28	29	27.2
	2023	33	33	25	25	28	25	30	41	25	28	31	29	29.4
中央手術室に おける 手術件数	2022	14	7	7	2	2	8	7	8	7	12	12	13	8.3
	2023	9	12	11	8	13	16	10	10	6	3	10	10	9.8

▶ 眼 科

▶ これからの展開

甲南医療センターの眼科は、直近年間約1,400件の手術(硝子体注射を含まない)を実施している。コロナ渦の受診控え後のリバウンドによる白内障手術件数増加は、昨年ピークを過ぎたものの、今後も1,300～1,400件の年間手術件数が予想される。昨年までは手術増加に対応するためや、一日の入院患者の集中を避けるために週5で、月～金での手術を実施していたが、今年度より働き方改革の導入やICU当直増加、手術室のマンパワー低下などにより、手術日は縮小せざるを得ない状況に直面している。いかにして、定期手術までの待機期間を延長せずに近隣眼科クリニックの期待に応えるかについて対策を進めていく必要がある。

▶ 得意領域の深化

当科の白内障手術は術後感染などの合併症は稀で、阪神間で最も安全性が高い眼科施設の1つであると自負している。この安全性を維持しながら、両眼白内障短期入院手術や短期硝子体手術などを積極的に推奨して、入院で生じる患者側の負担、および病院側の業務負担の軽減につなげていきたい。

【参考】直近5年間の当科の手術件数の推移

項目	2019	2020	2021	2022	2023
白内障手術	1,092	1,101	1,148	1,309	1,296
網膜硝子体手術	99	111	117	100	90
緑内障手術	13	19	24	10	7
その他	52	27	43	47	44
手術件数	1,256	1,258	1,332	1,466	1,437
硝子体注射	336	435	490	511	528
手術件数(注射を含む)	1,592	1,693	1,822	1,977	1,965

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2022	6.8	7.2	7.4	7.9	5.4	7.4	7.8	7.8	9.1	6.8	9.3	7.5	7.5
	2023	8.0	5.4	6.1	5.3	5.4	6.2	6.4	8.5	5.7	7.2	5.6	8.5	6.5
1日平均 外来患者数	2022	69.0	62.2	63.0	63.3	51.1	73.2	74.0	66.7	68.0	64.3	61.9	70.8	65.6
	2023	68.8	66.1	62.4	67.8	55.5	69.6	70.8	67.8	65.6	69.8	66.1	69.5	66.7
新入院患者数	2022	97	95	123	110	75	108	118	111	110	101	113	120	106.8
	2023	121	102	103	88	75	82	94	101	70	94	80	79	90.8
中央手術室に おける 手術件数	2022	163	148	188	171	140	177	193	178	182	161	177	187	172.1
	2023	198	155	165	154	143	145	168	180	131	166	161	145	159.3

▶ 耳鼻咽喉科

▶ これからの展開

耳鼻咽喉科の疾患は多岐にわたる。小児は滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎、扁桃肥大、乳幼児の難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎など、成人は慢性副鼻腔炎、慢性扁桃炎、扁桃肥大に伴う睡眠時無呼吸症候群、声帯腫瘍、急性炎症性疾患、顔面神経麻痺、突発性難聴などを中心に、地域の耳鼻咽喉科医院と連携をとりながら診療を行う。また、慢性涙囊炎による涙目に対して内視鏡下鼻腔涙嚢吻合術を眼科と合同で行い症例数を増やしている。嚥下障害の診断を通じて、他科診療を支援する。当科は、医師と聴覚専門の言語聴覚士が全員女性で、0歳から100歳以上の老若男女、子どもや働く保護者への配慮を含め、丁寧な医療を目指している。

▶ 得意領域の深化

慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔腫瘍などの鼻内疾患に対する手術は内視鏡下で行われる。内視鏡下で精細な操作が可能となる反面、鼻に隣接する脳や目といった重要な臓器の近傍まで操作が及ぶ。これらの損傷を避けるため、ナビゲーション機器を導入し安全性を高めている。近年増加傾向の好酸球性副鼻腔炎は、重症度に応じて難病指定を行い、併発する気管支喘息に対して呼吸器内科と連携し、手術から生物学的製剤を含めた投薬治療を行う。高気圧酸素治療装置は近隣病院にない設備で、重症の突発性難聴を中心に施行している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	3.8	5.3	3.5	3.2	4.9	2.4	3.5	3.4	3.1	2.8	3.3	2.7	3.5
	2023	3.7	3.7	4.9	7.2	5.3	4.0	3.9	4.4	5.1	5.0	4.3	4.6	4.7
1日平均外来患者数	2022	31.1	33.2	30.1	30.5	34.8	38.3	34.5	34.5	32.5	30.2	35.0	36.7	33.4
	2023	35.1	36.5	36.0	41.5	38.9	36.2	38.2	37.6	36.7	39.9	40.4	40.9	38.2
新入院患者数	2022	13	28	23	17	26	16	17	17	15	17	19	20	19.0
	2023	15	21	27	32	35	18	23	20	35	28	24	29	25.6
中央手術室における手術件数	2022	9	11	16	14	19	12	14	12	11	13	9	22	13.5
	2023	7	12	16	19	18	13	11	15	17	17	14	16	14.6

▶ 泌尿器科

▶ これからの展開

現在泌尿器科では人員減のため手術を休止中している。手術再開は時期未定であるが、再開後は旧来の状況に戻せるよう、外来診療の可及的な維持を目標としている。

▶ 得意領域の深化

現在は前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱などの薬物治療や泌尿器癌の診断や前立腺生検を行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	4.3	5.2	6.4	7.4	5.9	4.9	6.6	4.9	6.8	8.1	5.4	4.5	5.9
	2023	3.4	6.2	6.0	6.3	9.3	9.5	6.1	5.9	7.0	6.0	4.6	6.1	6.4
1日平均外来患者数	2022	22.6	23.2	22.6	21.4	23.4	20.1	23.9	23.2	24.6	22.8	24.0	20.3	22.7
	2023	22.0	23.2	19.2	22.3	21.5	21.8	22.2	25.0	23.2	23.7	22.3	22.9	22.4
新入院患者数	2022	25	28	24	33	38	31	27	31	35	35	21	22	29.2
	2023	19	33	30	19	33	29	24	31	38	32	24	21	27.8
中央手術室における手術件数	2022	18	17	17	27	19	22	18	17	24	22	15	15	19.6
	2023	11	14	22	9	18	21	16	16	21	19	15	12	16.2

▶ 産婦人科

▶ これからの展開

産婦人科ほど多岐に渡る診療を行っている診療科はないと言える。出産に始まり、さらに思春期のヘルスケア、妊娠分娩、成熟期の疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢胞)の治療、更年期のヘルスケア、がん治療、老年期の疾患といった女性の一生の健康管理ができる医療を、常に高い水準で目指し、女性の健康を保つ上で良きパートナーでありたいと考える。そのために、得意とする腹腔鏡などの低侵襲手術を伸ばすとともに、常に最新の知見や技術をアップデートしていきたい。学会、論文発表を積極的に行い、近隣の市民の皆様、医療関係者に対し情報発信をおこない一層地域に根ざした中核病院となることを構想していく。

▶ 得意領域の深化

当院は、兵庫県より地域周産期協力病院に指定され地域の周産期ネットワークの一翼を担っている。NICUが無いため、妊娠35週以降の取り扱いだが、近隣のクリニックに通院中の妊婦さんに何かあった場合は紹介を頂いている。一方、当院通院中の妊婦さんに、例えば妊娠35週以前に急にお腹がはるなどの場合は、このネットワークを生かして高次の周産期医療機関と連携し、紹介をしている。従来より医師のスキルアップには力をいれており、当科は産婦人科のサブスペシャリティである周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、女性医学専門医やまた腹腔鏡技術認定医の修練施設。個々の医師が修練することで全体のレベルアップを計っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	8.7	9.4	7.2	7.7	9.4	7.2	9.4	9.7	8.7	7.2	9.3	10.4	8.7
	2023	8.3	9.0	10.6	9.8	11.5	9.5	12.1	10.4	10.7	9.5	8.1	7.7	9.8
1日平均外来患者数	2022	24.4	26.4	24.9	22.6	23.5	27.1	26.4	27.8	29.7	27.5	26.6	28.0	26.2
	2023	25.7	25.1	26.6	26.0	24.0	26.5	29.9	27.3	26.0	26.1	24.6	27.0	26.2
新入院患者数	2022	38	51	35	38	46	41	37	43	43	40	34	49	41.3
	2023	40	53	54	56	67	44	66	48	53	50	37	44	51.0
中央手術室における手術件数	2022	27	35	24	22	32	26	22	28	31	22	23	33	27.1
	2023	28	25	31	27	40	28	37	24	28	30	22	24	28.7

▶ 形成外科

▶ これからの展開

形成外科の常勤スタッフは3名で昨年までと変化はないが、形成外科専門指導医が2名体制となりの外来や手術で業務分担、効率化が可能となった。診療範囲としてやや外傷手術症例が少ないため、今後は外傷応需率を上げて、外傷領域の手術件数UPを目指す。

▶ 得意領域の深化

1) 眼形成外科

眼瞼下垂症をはじめとする瞼(まぶた)の形成外科で質の高い医療を提供していきたい。年々、近隣開業医から眼瞼手術依頼の紹介件数は増加傾向にある。高齢者の加齢性の眼瞼疾患のみならず、小児の先天性眼瞼下垂や内反症では全身麻酔下に手術ができる体制である。

2) 乳房再建

乳腺外科と連携して希望される患者全てに乳癌の治療と並行して乳房再建の機会を提供できればと考える。自家組織および人工物それぞれの再建が提案できる。

3) 新任の指導医はマイクロサージャリーを得意分野としており、乳房再建とあわせてリンパ浮腫に対するマイクロサージャリー、リンパ管静脈吻合も積極的におこなっていききたい。またそのために、リンパ浮腫に対する保存的治療、セラピーができる看護師の育成が望まれる。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	7.9	8.5	11.5	11.9	8.9	7.1	9.3	10.0	10.5	7.8	10.1	6.3	9.1
	2023	8.1	10.3	10.9	13.1	10.0	9.7	9.3	6.6	4.9	6.4	6.6	8.3	8.7
1日平均外来患者数	2022	18.5	19.0	15.4	17.9	16.4	18.6	14.8	19.0	18.4	15.4	15.4	16.2	17.1
	2023	15.9	16.8	17.5	16.4	17.4	16.1	13.7	12.9	16.6	16.4	17.4	17.1	16.2
新入院患者数	2022	6	17	18	18	16	15	11	14	17	20	14	12	14.8
	2023	10	17	23	17	21	14	17	13	11	20	10	14	15.6
中央手術室における手術件数	2022	23	29	27	25	47	33	22	29	34	35	25	28	29.8
	2023	24	33	43	32	38	28	28	27	23	21	28	34	29.9

▶ 歯科口腔外科

▶ これからの展開

口腔外科疾患全般に対して質の高い医療を提供できるよう研鑽を積み、地域に必要な歯科口腔外科と認識されるよう努力したい。また、2024年4月より周術期口腔ケア室を設置していただいたので、院内の他診療科との連携をこれまで以上に推進したい。周術期の患者、人工呼吸器が装着されている患者、抗癌剤を投与されている患者などに対して積極的に介入し、口腔内を清潔にして食べる機能を回復することで、治療成績の向上に貢献していきたい。

▶ 得意領域の深化

当科では、患者がストレスなく安心して抜歯できる体制を整えている。親知らず(智歯)が深い位置に埋伏している場合や、抜歯に対する恐怖心の強い患者に対し、入院(2泊3日)のうえ全身麻酔下での抜歯を行っている。2023年の症例数は220件と当科の入院症例の7割近くを占めており、得意領域となっている。また、抗血栓薬(抗凝固薬や抗血小板薬)を内服している患者は、抜歯後の出血が止まりにくいリスクがあるので、抜歯した日に1泊してもらい翌日に退院する1泊2日の入院局麻下の抜歯も行っている。入院しているので、抜歯部位から夜間に出血しても迅速に対応することが可能である。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	1.5	1.7	2.2	2.9	1.7	1.2	1.3	1.4	1.0	1.2	1.7	1.7	1.6
	2023	1.9	1.7	1.8	2.0	1.7	1.1	2.3	1.8	1.8	1.6	1.5	1.5	1.7
1日平均外来患者数	2022	37.6	38.4	37.7	37.6	37.4	37.3	40.2	41.8	41.1	37.1	41.2	43.6	39.2
	2023	38.0	40.4	40.6	38.3	38.5	37.1	38.8	35.6	41.2	37.5	40.6	41.4	39.0
新入院患者数	2022	20	25	26	29	26	19	20	22	17	21	28	24	23.1
	2023	26	27	28	31	31	18	32	26	25	24	22	24	26.2
中央手術室における手術件数	2022	17	15	22	17	23	16	18	20	14	14	20	21	18.1
	2023	20	21	21	21	22	16	21	21	21	18	18	18	19.8

▶ 麻酔科

▶ これからの展開

2023年度は診療科からのあらゆる手術に迅速に対応した。ロボット手術においても問題なく導入できた。また、術後疼痛管理チームを構成し、多職種によるより積極的な疼痛管理を行った。

2024年度は、麻酔科医が増員されたことによりさらに診療科からの手術に対応したいと考える。患者の高齢化にともない、術前にさまざまな合併症がみられる。これら合併症について、積極的に術前管理に参加するように努力する。

▶ 得意領域の深化

麻酔科医の役割(得意分野)の一つとして、周術期全身管理がある。ICUなどにおける術後全身管理についてより一層関与していきたいと考える。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
全身麻酔件数	2022	212	220	224	201	250	214	224	236	242	244	226	265	229.8
	2023	183	220	230	208	259	206	226	227	208	217	216	215	217.9

▶ 救急科

▶ これからの展開

救急外来は初療室4(うち感染対策兼用2)・感染対策用室2・一般診察室2、点滴室6も合わせると14床で運用している。同時に診察できる患者数は多くなったが、対応する医師・看護師数が見合っていなかった。しかし2023年に救急専門医2名が常勤となり、救急対応能力が格段に上がった。結果、2023年度は救急車搬送数だけでも7100件を超え、前年度比約1000件増となった。2024年4月、専任3・内科専攻医1・臨床研修医3の基本体制で対応、平日日中の救急応需不可はほとんどなく対応可能となっている。ただ、救急専門医は2名常勤のうち1名はICU専任で勤務しており、救急現場の専任は2である。今後は、救急科専任の医師をさらに増員し、より多くの救急患者を救急科での入院を含めできるよう尽力し、将来的には救急専門医認定施設を目指す。

▶ 得意領域の深化

救急科は専任3・内科専攻医1(平日日中内科系各科から1名派遣)・臨床研修医3で診療にあたっている。他科には、救急担当者が各日決まっており、受診した患者の診察結果に基づき、該当する科の救急担当者に連絡して診察を依頼している。全科が協力して救急患者に対応していることで、多様な疾患・多数の患者様の受け入れを可能としている。症例数が多く2次救急疾患のほとんどを扱い、さらに複数患者を同時診察する場合が多く、優先度・安全性を判断しつつの診察となる。こうした『限られた時間内での診断力』も養えるよう実症例・講義を通して指導・教育している。救急専門医が常勤となり、以前よりさらに専門的な救急診療に関する知識を学習できるようになり、現場での直接的な指導を行うとともに、救急診療に関するレクチャーや救急科症例の振り返り検討会を開催。救急で診察して頂いている専攻医や研修医の学習の糧となり、より高度な救急対応ができることを目標としている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救急搬送患者数	2022	462	467	419	491	455	522	485	503	701	557	510	532	508.7
	2023	549	593	566	674	687	539	586	578	595	615	565	604	595.9
救急ウォークイン患者数	2022	542	615	450	722	630	613	554	511	588	562	431	445	555.3
	2023	512	689	564	671	662	517	522	540	539	558	460	457	557.6
合計	2022	1,004	1,082	869	1213	1,085	1,135	1,039	1,014	1,289	1,119	941	977	1,063.9
	2023	1061	1282	1130	1345	1349	1056	1108	1118	1134	1173	1025	1061	1153.5

2. 六甲アイランド甲南病院

基本方針

- 患者様の人格と意思を尊重し、全人的医療を目指します。
- いつも安心と満足を提供できる病院を目指します。
- 良質の医療を提供するために、健全な経営を目指します。
- 専門職としての誇りを持ち、やり甲斐ある職場をつくりまします。

院長挨拶



三枝 康宏 院長

六甲アイランド甲南病院では、現在回復期リハビリテーション病棟と、地域包括ケア病棟を運営しています。回復期リハビリテーション病棟は、脳血管障害、骨折、股関節や膝関節の人工関節手術後の患者様に、リハビリテーション医療を集中的に提供する病棟です。2020年には、病棟およびリハビリテーションルームを開放的な明るい空間に改修し、ADL訓練を主としたスペースと電動昇降式のキッチンや浴室訓練等の設備を揃え、退院後の患者様個々に合わせたリハビリテーションが行えるようにしています。

また、病棟内にもリハビリルームを設置しており、リハビリ技士による治療・訓練だけでなく、患者様自身も退院に向けたトレーニングがいつでも行える環境を整備しています。地域包括ケア病棟は、地域の患者様で高度な医療は必要ないが、在宅での治療が困難な方に入院医療を提供する病棟で、主として地域の先生方からの紹介患者を受け入れています。

さらに、急性期の治療は終了したが、回復期リハビリテーション病棟の入院の適応にはならない患者様も受け入れています。一般病床も一部存続しますので、地域の皆様の急性期医療の一翼を担えるものと考えています。特に、人生100年時代を想定した心臓リハビリテーションを積極的に行っています。

2020年4月に、一般財団法人甲南会は公益財団法人となり、より公益性が求められるようになりました。甲南医療センター共々、地域の皆様の健康と福祉に貢献する所存でありますので、今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特色

六甲アイランド甲南病院は、神戸市東灘区の六甲アイランド内にあり、主に回復期の患者様を中心とした病院として、地域の医療機関からの紹介を積極的に受け入れ、地域の方々の生命と健康を守るための医療を実践しております。

当院では、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、一般病棟を有しており、特にリハビリテーションの特徴として、患者様個々の病態に応じた、安全かつ効果的な治療計画が提供できるよう努めております。

理念として「人類愛の精神に基づき、病める人のためにつくします」を謳い、職員がいつも笑顔と挨拶を絶やさず、医療知識と技術の研鑽を積み、信頼される安全な療養環境が提供できるように努めています。

公益財団法人甲南会のグループ病院として、甲南医療センターや甲南介護老人保健施設、甲南訪問看護ステーション、地域の関係機関等と連携して、患者が出来るだけ早く在宅で自立復帰ができるよう、医療と介護の支援に取り組んでいきます。

沿革

1992年(平成4)	4月1日、六甲アイランド病院開院(307床)
1995年(平成7)	阪神・淡路大震災で被災
2004年(平成16)	医師臨床研修病院指定
2006年(平成18)	病院機能評価(Ver.4)認定
2008年(平成20)	DPC適用病院となる
2009年(平成21)	健診センターを開設
2010年(平成22)	病院機能評価(Ver.6)受審
2012年(平成24)	電子カルテを導入
2019年(平成31)	10月、甲南会の病院再編統合事業により、一般病棟34床、地域包括ケア病棟104床、回復期リハビリテーション病棟60床と再編され、198床へ

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中2-11
- TEL 078-858-1111
- 創立 1992年4月1日
- 土地面積 4,967㎡
- 建物 地下1階地上13階 延20,974㎡
- 病床数 198床(一般病棟34床、地域包括ケア病棟104床、回復期リハビリテーション病棟60床)
- 職員数 医師17名、看護部門198名、診療技術部門95名
事務部門41名 計351名(2024年3月31日現在)
- 診療科目 内科/循環器内科/消化器内科/腎臓内科/脳神経内科/
外科/整形外科/神経科/小児科/皮膚科/泌尿器科/
産婦人科/眼科/耳鼻咽喉科/リハビリテーション科/
放射線科/歯科口腔外科/血液浄化センター/健診センター
- 外来診療 受付時間 : 8時30分 ~ 11時30分
診療時間 : 9時00分 ~ 17時00分
- 入院基本料施設基準 急性期一般入院料Ⅵ / 地域包括ケア病棟入院料Ⅰ /
回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ
- 救急告示 有

▶ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院 患者数	2022	155	152	156	157	154	145	150	155	160	159	155	156	154
	2023	156	160	170	171	173	172	173	167	172	186	185	187	173
1日平均 外来 患者数	2022	308	314	281	300	289	315	295	296	304	284	288	290	297
	2023	278	287	277	279	261	288	281	283	281	217	277	281	279
新入院 患者数	2022	117	124	127	133	112	127	119	137	156	110	114	120	125
	2023	105	125	122	131	141	130	125	134	139	138	122	123	128
1日平均 健診センター 受診者数	2022	10	18	15	19	15	19	22	32	19	18	20	18	19
	2023	11	18	19	18	16	20	19	33	19	18	17	15	19

組織図



3. 甲南加古川病院

基本方針

- 地域社会との協調を深め、信頼される病院を目指します。
- 患者様に優しさと安心と満足を提供できる病院を目指します。
- 患者様の人権と意思を尊重した医療を提供します。
- 医療職としての誇りを持ち、働き甲斐のある職場を目指します。

院長挨拶



黒田 浩光 院長

甲南加古川病院は整形外科、内科の診療と皮膚科の外来診療を行っています。整形外科はリウマチ診療を継続しており、高い技術が必要な人工関節置換手術を中心に変形性関節症や、外傷による骨折に対する手術も積極的に行っています。また、手術後や保存的加療が適応となる圧迫骨折などの疾患に対して、リハビリテーションを入院・通院で提供しています。

内科は地域の急性期基幹病院と密接に連携して、急性期の専門治療終了後の継続入院加療を引き受けることや、介護施設や在宅で体調管理が困難となった患者の入院療養を行っています。通院が困難な在宅患者には、訪問診療、訪問看護を実施しています。

外来では循環器、糖尿病に加えて物忘れ外来、頭痛の専門外来を脳神経内科で行っています。

2024年4月、事業譲渡により甲南加古川病院ははくほう会加古川病院となりますが、引き続き、周辺地域の皆さんに安全かつ信頼される医療を提供できるよう、職員一同日々精進してまいります。

特色

甲南加古川病院は播磨平野のほぼ中央にあり、加古川市の東北丘陵地にある緑豊かな病院です。整形外科・内科を中心に入院・外来診療を提供するほか、在宅診療にも力を入れています。

整形外科・リウマチ科では、2016(平成28)年に開設した人工関節センターに加え、関節リウマチ・トータルケア、骨粗鬆症リエゾンサービスの三つを「三本の矢」として実践しています。

沿革

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 1941年(昭和16) | 8月、加古川第二陸軍病院として創設 |
| 1945年(昭和20) | 12月、厚生省に移管し、国立神野病院に改称 |
| 1950年(昭和25) | 4月、国立療養所加古川病院に改称 |
| 1980年(昭和55) | 4月、国立加古川病院に移管 |
| 2000年(平成12) | 12月1日、国の病院再編により移譲、加古川病院開設(250床) |
| 2002年(平成14) | 加古川病院血液浄化センターの完成 |
| 2004年(平成16) | 医師臨床研修病院指定 |
| 2005年(平成17) | 病院機能評価(Ver.4)認定 |
| 2009年(平成21) | DPC適用病院となる |
| 2010年(平成22) | 病院機能評価(Ver.6)認定 |
| 2011年(平成23) | 電子カルテを導入 |
| 2016年(平成28) | 人工関節センターを開設 |
| 2018年(平成30) | 一般病床159床、療養病床40床の199床へ |
| 2024年(令和6) | 4月1日、事業譲渡により甲南加古川病院廃止・はくほう会加古川病院開設 |

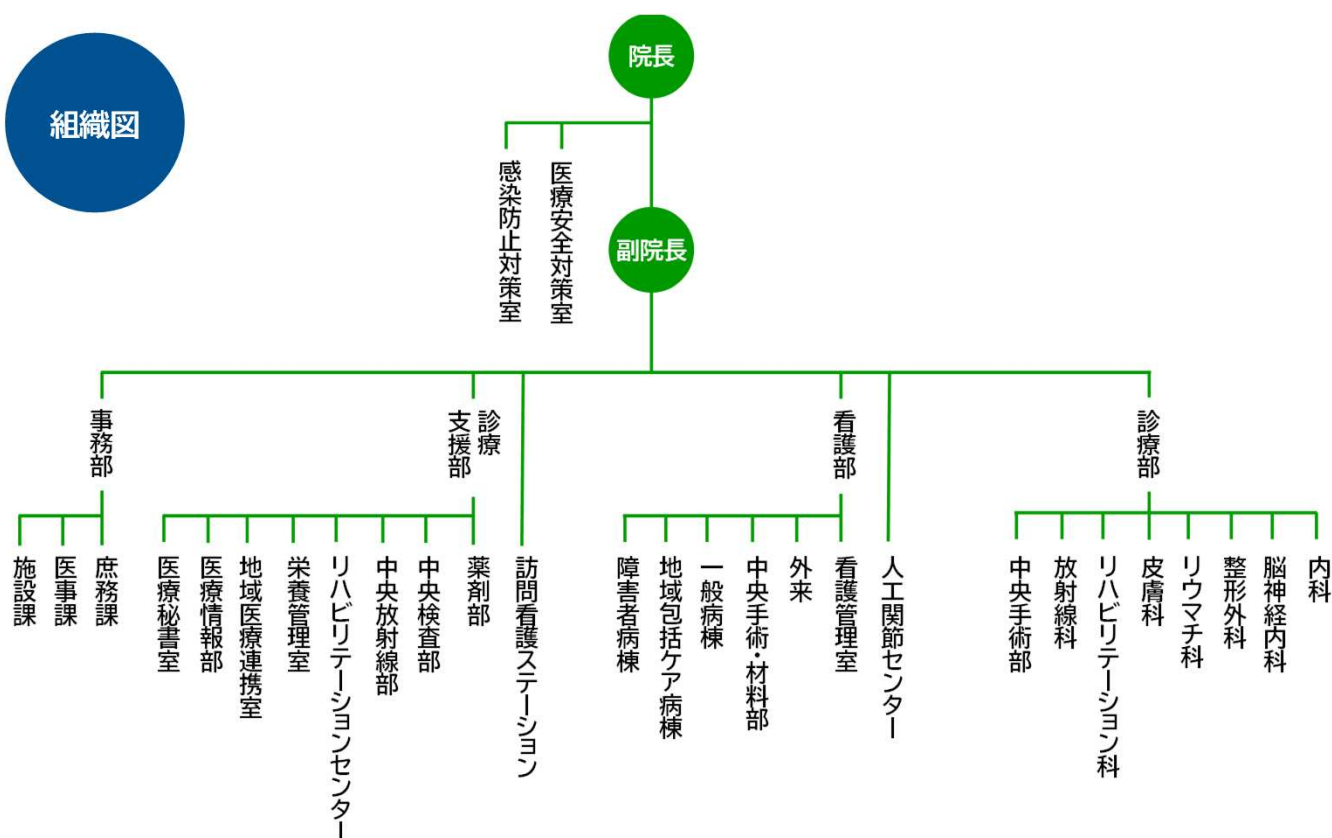
概要

- 所在地 加古川市神野町西条1545-1
- TEL 079-438-0621
- 創立 2000年12月1日(国立加古川病院から移譲)
- 土地面積 54,960㎡
- 建物 地上3階 延14,688,80㎡
- 病床数 199床(一般病棟159床、療養病床40床)
- 職員数
 - <甲南加古川病院>
 - 医師9名、看護部門111名、診療技術部門32名、事務部門25名 計177名
 - <甲南加古川訪問看護ステーション>
 - 看護師4名、事務1名 計5名
 - 合計182名(2024年3月31日現在)
- 診療科目 内科/循環器内科/脳神経内科/リウマチ科/(外科)/整形外科/皮膚科/リハビリテーション科/
- 外来診療 放射線科/麻酔科/(眼科)/(耳鼻咽喉科)
 - 受付時間 : 8時30分 ~ 11時00分
 - 診療時間 : 9時00分 ~ 17時00分
- 入院基本料施設基準 急性期一般入院料2/地域包括ケア病棟入院料Ⅰ/障害者病棟10対1入院基本料/
- 救急告示 有(二次救急)

▶ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2022	94	90	90	85	85	93	90	92	90	90	87	84	89
	2023	86	87	82	90	88	92	93	87	100	96	108	102	93
1日平均外来患者数	2022	173	174	167	172	164	170	164	157	156	150	151	152	163
	2023	152	163	147	162	160	158	161	166	159	159	160	134	157
新入院患者数	2022	88	93	87	64	107	80	90	87	91	83	91	90	88
	2023	80	73	87	76	88	89	82	80	75	78	70	68	79
中央手術室における手術件数	2022	48	46	47	44	36	37	40	44	41	38	43	49	43
	2023	36	37	40	43	37	41	34	37	41	31	37	39	38

組織図



▶ 甲南加古川訪問看護ステーション

概要

- 所在地 加古川市神野町西条1545-1
- TEL 079-430-5730
- 創立 2019年4月1日
- 活動地域 加古川市
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み)
8時30分 ～ 17時15分



4. 甲南介護老人保健施設

基本方針

- 利用者様の人としての尊厳と権利を守ります。
- 利用者様が安心して心豊かに暮らせる施設を目指します。
- 利用者様の生活機能の維持向上に努めます。
- 地域連携を通し、利用者様が住み慣れた居宅への復帰を目指します。

施設長挨拶



宮下 勝 施設長

高齢者では複数の疾病を抱える人が多くなり、日常生活に関連した機能が低下するため、個々の疾病に対処するだけではなく、全身の臓器機能やADLに代表される身体機能、あるいは心のケアを含めさらに社会環境の整備までに及ぶ広い視点が必要と考えます。人生の豊かな経験を持つ高齢者の方々に、一人ひとりのNarrativeを大切に、尊重する姿勢で耳を傾け、心に接する介護やケアを行わんと努力しております。今まで創設以来積み上げてきた「高齢者のため、安心して心豊かに暮らせる施設」を、職員全員が暖かな気持ちで高齢者の人々を包み込み、さらに前進して参ります。

特色

「人間としての尊厳・権利を守り、各個人の価値観や日常習慣などを尊重し、その人の立場にたった優しさと温もりのある看護・介護を提供し、一人ひとりの心に届くケアを行う」と理念に掲げ、安心して心豊かに暮らせる施設を目指しています。

また、生活に希望と喜びを感じ、自分らしい暮らし方を続けられるように在宅復帰超強化型施設として、機能維持・改善の支援を行います。

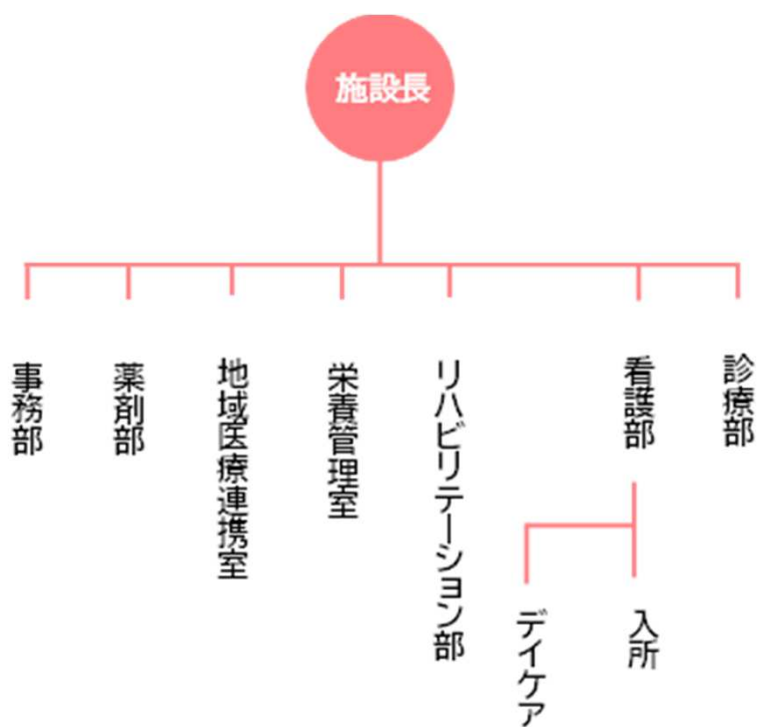
高齢者のリハビリテーションは、日常の生活動作能力を維持することが大きな目標となります。ベッドからの寝起き・更衣・トイレ動作などの生活をしていく上で必要な動作習得に向けて、リハビリ専門職と一定の時間・場所での訓練に限らず、実際の生活場面での練習をしていきます。

さらに、在宅復帰の実現に向けては、家庭を訪問し課題を積極的に解決していきます。

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中3-2-5
- TEL 078-858-1180
- 創立 2001年11月1日
- 定員 入所80名/通所30名
- 室数 療養室80床(個室4室、2床室2室、4床室18床)
- 建物 地下1階地上3階 延4,024㎡
- 職員数 医師1名、薬剤師1名、看護師9名、准看護師2名、介護福祉士30名、リハビリ専門職5名、介護支援専門員2名、社会福祉士3名、看護助手7名、管理栄養士1名、事務4名
計65名(2024年3月31日現在)

組織図



業績実績

項目	2021年度	2022年度	2023年度
入所者数(1日平均)	76.7	66.3	72.0
通所者数(1日平均)	23.9	20.0	16.9
在宅復帰率	57.6	54.9	52.3
回転率	13.4	11.9	12.1



5. 甲南訪問看護ステーション

基本方針

- 利用者様がご自宅で自立した日常生活を送れるように支援します。
- 利用者様の権利を尊重し、利用者様との信頼関係を大切にします。
- 主治医との連携を取り利用者様が期待する、明るく・あたたかで、安心な看護サービスに努めます。
- 必要時に行政機関・福祉サービス事業者等と連絡を取り、利用者様の療養に必要な良質なサービスが提供できるよう努めます。

所長挨拶

地域包括ケアシステムの充実に向けて訪問看護への期待が高まる中、新型コロナウイルス感染症の流行で、病院や施設の面会制限により在宅療養を希望される方が増えています。訪問看護は、在宅療養の不安や苦痛を解消し「住み慣れた地域で暮らしたい」をお手伝いします。利用者様の意思決定を支える為に、ご家族、訪問医、ケアマネージャー、介護事業所、近隣の方々とも共同します。

特色

当ステーションは、甲南医療センターや六甲アイランド甲南病院、甲南介護老人保健施設と同グループで協力連携が図りやすい点が特徴です。

サービス内容は、病状の観察、薬剤管理、医療機器の管理、創傷処置などの医療的処置を加え、日常生活の相談や指導、精神的な支援、終末期看護などを行っています。

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中2-11
- TEL 078-854-1156
- 創立 2001年10月1日
- 活動地域 神戸市東灘区・灘区・芦屋
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み) 8時30分 ～ 17時15分
- 職員数 看護師9名、理学療法士3名、事務1名
合計13名(2024年3月31日現在)

業績実績

項目	2021年度	2022年度	2023年度
訪問件数	722	829	706

6. 甲南居宅介護支援事業所

特色

在宅での生活や療養・介護に関して不安をもたれている皆さまが、安心して生活できるようにお手伝いします。

介護が必要になったとき、どんな方法があるか一緒に考え、歩んでいけるよう、利用者のご家族の思いを大切に、意向に沿ったサービス提供を心がけています。

在宅介護に関することなど、何なりとお気軽に電話で相談いただき、私たちケアマネジャーにお任せください。

当事業所の担当エリアは六甲アイランドを中心とした東灘区です。

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中3-2-5
- TEL 078-858-1257
- 創 立 2001年11月15日
- 活動地域 六甲アイランドを中心とした神戸市東灘区
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み) 8時30分 ～ 17時15分
- 職員数 介護支援専門員3名 (2024年3月31日現在)

業績実績

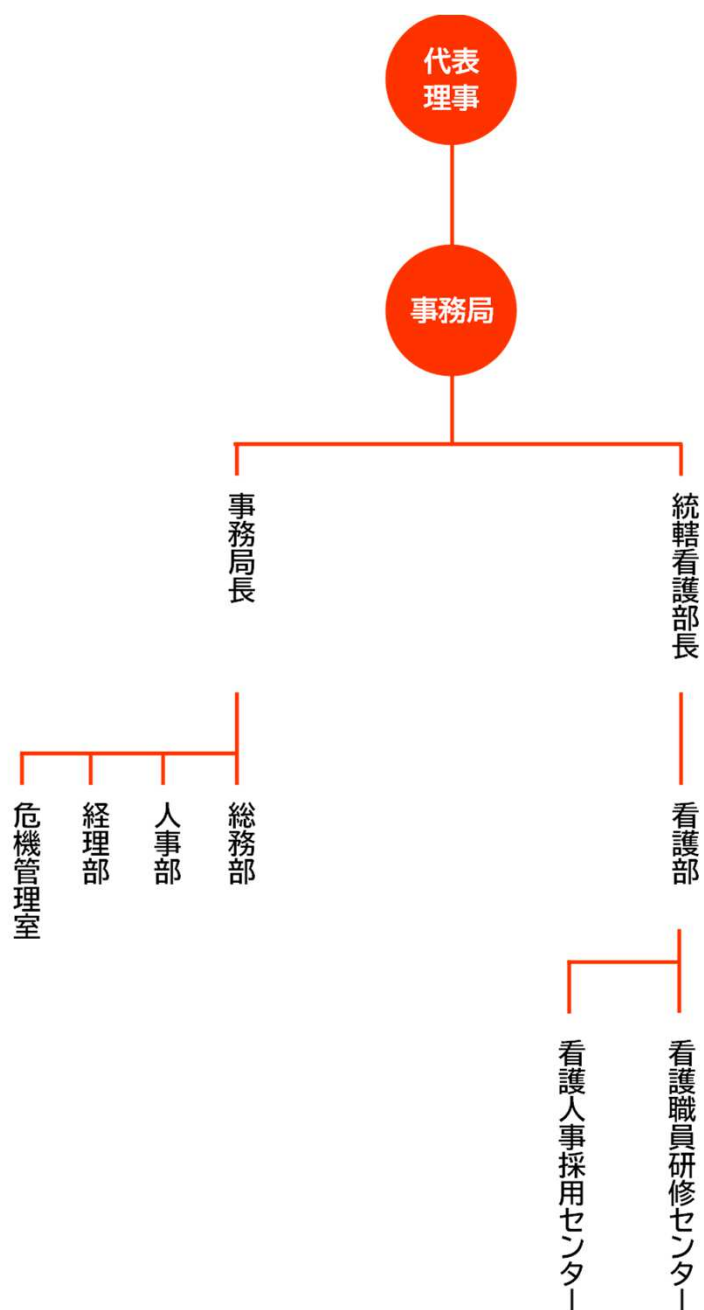
項目	2021年度	2022年度	2023年度
居宅支援件数	96	117	91

7. 事務局

概要

- 所在地 神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16 甲南医療センター内3・4階
- TEL 078-854-4072
- 職員数 事務19名、看護師3名 計22名(2024年3月31日現在)

組織図



※2024年3月末日現在

第3. 事業の概要

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

(1) 発熱・接触者外来を設置

甲南会においては、2020年2月に新型コロナウイルス感染症が『指定感染症』になった事を受けて、甲南医療センターと六甲アイランド甲南病院に、早い段階から『発熱・接触者外来』を設置し運営を開始した。

なお、発熱・接触者外来については、2023年4月以降の受診状況と同年5月8日からの第5類感染症引き下げに伴い、各院で状況を勘案し9月末日をもって全て閉鎖した。

ア 甲南医療センター ※救急外来と並行して対応

年度	内容	受診者数(合計)
2021	発熱・接触者外来	670名
2022	発熱・接触者外来	705名
2023	発熱・接触者外来	—

※甲南医療センターは2023年4月から初診対応に変更したため、同年3月末日をもって閉鎖。

イ 六甲アイランド甲南病院

年度	内容	受診者数(合計)
2021	発熱・接触者外来	597名
2022	発熱・接触者外来	1,754名
2023	発熱・接触者外来	239名

ウ 甲南加古川病院

年度	内容	受診者数(合計)
2021	発熱・接触者外来	55名
2022	発熱・接触者外来	156名
2023	発熱・接触者外来	93名

(2)陽性患者受け入れ病棟の開設

甲南会においては、2020年10月から甲南医療センターが新型コロナウイルス感染症陽性者専用病棟を開設し、受け入れを開始した。

その後、2021年3月からは六甲アイランド甲南病院が、続いて甲南加古川院も陽性者の受け入れを開始した。更に2022年9月から甲南医療センターが東2階病棟に14床を増床した。なお、新型コロナウイルス感染症陽性者専用病棟については、2023年5月8日からの第5類感染症引き下げに伴い、各院で状況を勘案し9月末日をもって閉鎖した。

ア 甲南医療センター(南1階病棟:15床)※2022年9月1日より、東2階病棟に14床増床

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 患者数	2021	4.7	5.6	3.4	4.3	6.0	5.0	2.0	0.2	0.5	5.8	9.7	6.3	4.4
	2022	5.2	4.6	3.5	9.7	13.3	4.3	3.1	8.0	17.3	17.7	4.0	0.8	7.6
	2023	1.4	3.0	11.2	14.9	17.6	12.2	—	—	—	—	—	—	10.1

イ 六甲アイランド甲南病院(7階病棟:11床)

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 患者数	2022	1.4	6.0	1.1	6.0	9.3	2.3	2.9	4.8	6.1	6.7	0.9	0.9	4.1
	2023	0.3	1.2	3.1	4.5	4.4	2.6	—	—	—	—	—	—	2.7

ウ 甲南加古川病院(東1階病棟:10床対応)

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 患者数	2022	4.2	1.9	1.5	3.7	5.1	4.4	1.7	4.5	4.2	4.2	3.5	1.2	3.3
	2023	0.8	0.7	0.4	3.0	2.1	3.1	—	—	—	—	—	—	1.7

2. 東灘次世代医療人材育成コンソーシアム

(1)コンソーシアム設立の目的(2018年11月17日設立)

- ア 優れた若手医療人材を育成すること
- イ 生活習慣の改善や疾病予防活動で地域医療に貢献すること
- ウ 地域の総合力で健康を増進し、人材を育てつなぐこと



(2)これまでの活動

ア 職員派遣

連携している各施設間において、講師派遣や研修会への職員交流による知識・情報提供により、人材育成が進められている。

内容	担当	開催日	開催場所	参加対象
看護学部講義 『疾病治療論』	甲南医療センター 診療部	通年	甲南女子大学	甲南女子大学 看護学科
甲南大学入学試験 受験者の休養室等での対応	甲南会グループ所属医師	入学試験 期間のみ	甲南大学	甲南大学入学 試験受験者

イ 実習生の受入

中南会では、急性期・緩和ケア・回復期リハビリ等の診療研修を実施し、積極的に実習生の受入を行っている。また、東灘区にある3大学だけでなく、その他の地域の大学からも研修医・看護師・助産師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士の実習を受け入れ、サポートしている。

内容	担当	開催日	開催場所	参加対象
診療研修	甲南医療センター リハビリテーション部	通年	甲南医療センター	甲南女子大学 看護リハビリテーション学部理学 療法学科
診療研修	甲南医療センター 栄養管理部	通年	甲南医療センター	甲南女子大学 医療栄養学部栄養学科
診療研修	甲南医療センター 看護部	通年	甲南医療センター	甲南女子大学 医療栄養学部栄養学科
診療研修	甲南医療センター 薬剤部	通年	甲南医療センター	神戸薬科大学 薬学部

ウ 地域住民の健康増進

コンソーシアム設立の目的の1つとして、地域住民の健康増進、地域医療の質の向上がある。その活動の一環として、市民公開講座を無料開催し、役立つ情報を提供している。(2023年度は実績なし)

3. 公益目的事業の概要

(1) 地域医療を支援する事業

ア 地域医療機関を支援する取り組み

地域で必要な医療を確保するため、地域医療機関を支援すると共に連携を図り、医療機関の機能に応じた役割分担により、地域内で患者に予防・診療・在宅まで一貫した医療を供給できる体制を構築し、地域医療全体の医療の質の向上を図る。

(ア) 患者の紹介を通じた近隣医療機関との連携

甲南会では、かかりつけ医との連携を密にし、積極的にかかりつけ医からの紹介患者を受け入れ、また入院加療が終わった患者をかかりつけ医に戻し、病状に応じて患者が最適な医療機関で診察を受けることが出来るよう努める。

(イ) 病床、医療機器、設備等の地域の医師等への開放

かかりつけ医に病床や医療機器、設備を利用提供し、甲南会の主治医と共同診療することにより、首尾一貫した良質で効率的な医療を提供できる体制を構築し、地域医療の向上を図る。利用を希望するかかりつけ医は、甲南会の登録医として登録し、必要な時に利用することができる。

(a) 共同診療

かかりつけ医から紹介された患者を開放病床で受け入れ、かかりつけ医と甲南会の担当医師が共同で診療を行う。かかりつけ医は、手術・検査に立ち会うこともできる。かかりつけ医が入院中の患者の診療を行うことで、入院中の治療内容や検査結果を知ることができ、退院後もかかりつけ医のもとで、安心して一貫した外来診療を受けることができる。

◎開放病床

甲南医療センター	5床
六甲アイランド甲南病院	5床

◎利用可能医療機器

PET-CT、CT、MRI、RI、単純レントゲン、内視鏡カメラ、心電図、
超音波検査、脳波検査、神経伝達速度 等

【月別PET-CT、CT、MRI予約件数】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	140	151	162	126	114	161	143	165	162	135	143	160	1,762
2023	142	117	157	145	140	135	135	135	154	141	118	131	1,650

(b) 他開放施設・サービス

◎研修会等への参加：甲南会主催の学術講習会、カンファレンス、研修会

(c) 登録医数

2024.3.31現在 270医療機関、335名の医師(東灘区、灘区、中央区、
須磨区、芦屋市、西宮市) ※今後も登録医参加医療機関の増加をめざす。

(ウ)医療従事者に対する研修の実施

地域医療機関の従事者に対して、研修を実施し、医療技能専門職知識の習得を通じ医療従事者個々の医療技能向上及び地域医療全体の医療の質の向上を図る。

No.	研修内容	担当	開催日	開催場所	人数(参加対象)
1	第2回東神戸循環器症例カンファレンス ・TOPICS:当院での微小循環障害の評価 ・当院へご紹介いただいた急性下肢動脈閉塞の2症例 ・当院へご紹介いただいた症例の検討	甲南医療センター 循環器内科 部長 大久保 英明、 医長 宇津 賢三、長澤 圭典	2023年 5月25日	甲南医療センター	12名(医師)
2	第1回看護師のためのオンラインセミナー 「これからのCOVID19感染対策～5類移行後に何が変わる?～」	六甲アイランド甲南病院 感染管理認定看護師 師長 松本 悠子	6月22日	WEB開催	41名(看護師)
3	神戸市認知症疾患医療センター 第1回 事例検討会 「男性介護者に対する支援」	認知症疾患医療センター職員	6月29日	甲南医療センター	17名 (医師・看護師・ 認知症地域支援推進員、 ケアマネージャー・薬剤師・ 介護職等の専門職)
4	第3回地域連携カンファレンス 「急性腹症～外科医の視点から考える手術適応とその実際～」	甲南医療センター 診療部長 消化器外科部長 藤田 敏忠 (座長:太田 國隆 副院長)	7月13日	WEB開催	21名(医師、看護師等)
5	第1回甲南地域支援ネットワーク 「甲南地域支援ネットワークを立ち上げます」	開会挨拶:患者サポートセンター 地域連携センター長 清水 宏紀 患者サポートセンターMSW・看護師	7月27日	WEB開催	49名 (病医院の地域連携室、 あんしんすこやかセンター、 訪問看護ステーション、 居宅介護支援事業所など)
6	第2回看護師のためのオンラインセミナー 「ス टीमケアの基本とトラブル対応のコツ」	甲南医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 師長 鈴木 愛美	8月3日	WEB開催	35名(看護師)
7	第4回地域連携カンファレンス 「救急診断学」～ER事件簿～	甲南医療センター 救急科 副部長 宮崎 勇輔 (座長:高橋救急部長)	8月24日	WEB開催	40名(医師、看護師等)
8	第3回看護師のためのオンラインセミナー 「在宅でも出来る褥瘡ケア」	六甲アイランド甲南病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 師長 松尾 知子	10月12日	WEB開催	28名(看護師)
9	神戸市認知症疾患医療センター 認知症フレンドリー講座 「認知症の方の症状を体験しよう～VR研修会～」	認知症疾患医療センター職員	10月19日	甲南医療センター	25名(医療関係者、 福祉介護関係者など)
10	第5回地域連携カンファレンス 「動脈硬化に対する薬物療法のUPDATE」	甲南医療センター 循環器内科 医長 宇津 賢三 (座長:大久保診療部長)	10月26日	WEB開催	18名(医師、看護師等)

No.	研修内容	担当	開催日	開催場所	人数(参加対象)
11	第2回甲南地域支援ネットワーク 「事例から学ぶ『身寄りのない方』への支援について」	患者サポートセンターMSW	11月9日	WEB開催	57名 (病医院の地域連携室、 あんしんすこやかセンター、 訪問看護ステーション、 居宅介護支援事業所など)
12	第6回地域連携カンファレンス 「心臓リハビリテーションの最新トピックス」	六甲アイランド甲南病院 循環器内科 部長 水谷 和郎 (座長: 参事 清水 宏紀)	11月16日	WEB開催	21名(医師、看護師等)
13	第4回看護師のためのオンラインセミナー 「乳がん患者の看護～高齢者の乳がん」	甲南医療センター 乳がん看護認定看護師 副部長 瓜生 悦子	12月12日	WEB開催	12名(看護師)
14	第3回東神戸循環器症例カンファレンス 「症例検討会」	循環器内科 診療部長 大久保 英明、 医長 宇津 賢三、医員 高橋 良輔	12月14日	甲南医療センター	17名(医師)
15	第5回看護師のためのオンラインセミナー 「認知症とコミュニケーション ～BPSDの予防/緩和へのアプローチ～」	甲南医療センター 認知症看護認定看護師 副部長 保元 由香	1月31日	WEB開催	40名(看護師)
16	第1回甲南医療センター 地域連携懇話会: 特別講演 「ICTを活用した近未来の地域連携」	神戸大学医学部付属病院 肝胆膵外科 教授 福本 巧	2月10日	神戸ベイシェラトン	163名(地域の医療従事者)
17	第7回地域連携カンファレンス 「乳がんの手術」	乳腺外科 医長 岡本 明子 (座長: 院長代行 高尾 信太郎)	3月7日	WEB開催	23名(医師、看護師等)
18	第3回甲南地域支援ネットワーク 「在宅と緩和ケア病棟の連携による終末期支援—ご家族の闘病を見守りながら—」	患者サポートセンターMSW	3月14日	WEB開催	59名 (病医院の地域連携室、 あんしんすこやかセンター、 訪問看護ステーション、 居宅介護支援事業所など)
19	甲南PD連絡会 「腹膜透析関連のトラブルについて」	腎臓内科 副院長 藤森 明、 部長 岡田 志緒子	3月16日	甲南医療センター	21名(訪問看護師等)

(エ) 学生に対する研修・実習生の受入

(a) 実習生の受入

神戸大学医学部から将来の医師を目指す実習生として、医療現場で受け入れて実践研修を行う。

【2023年度医学生受入実績】

- ・神戸大学医学部医学科6年次「臨床実習2」 10名
- ・神戸大学医学部医学科6年次「臨床実習3」 20名
- ・神戸大学医学部医学科BSL年次関連病院実習 36 名

(b)講師派遣

甲南会の医療専門職を医療系大学での授業、講演会での講師として派遣し、各大学における医療職の養成を支援する。

【2023年度派遣実績・診療部門】

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
1	国立大学法人神戸大学医学部	神戸大学医学部非常勤講師	2023年4月1日～ 2024年3月31日	腫瘍・血液内科 部長 茶屋原 菜穂子
2	兵庫労働局労働基準部	兵庫労働局地方労災医員	2023年4月1日～ 2024年3月31日	整形外科 診療部長 笠原 孝一
3	NPO法人JONIE	JONIE Meeting in Hiroasaki 施設代表医師	2023年4月21日、 22日	乳腺外科 院長代行 高尾 信太郎
4	国立大学法人神戸大学医学部	神戸大学医学部非常勤講師	5月1日～ 7月31日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
5	サノフィ株式会社	Dupixent CRSwNP 3rd Anniversary Hybrid Seminar in HYOGO 演者	5月13日	耳鼻咽喉科 部長 小池 雪絵
6	Meiji Seika ファルマ株式会社	神戸血液セミナー 講演者	5月19日	腫瘍・血液内科 診療部長 下山 学
7	関西福祉大学	関西福祉大学看護部 講師	5月25日	小児科 医長 谷口 裕章
8	日本イーライリリー株式会社・ 田辺三菱製薬株式会社	Kobe Incretin Web Conference ディスカッサント	6月2日	糖尿病・内分泌・総合内科 医長 浜口 哲矢
9	株式会社メディコスヒラタ	第4回兵庫県胆膵内視鏡臨床 ワークショップ 講師	6月7日	消化器内科 医長 山中 広大
10	アストラゼネカ株式会社	Severe Asrhma Expert Meeting 司会	6月8日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
11	日本イーライリリー株式会社・ 田辺三菱製薬株式会社	マンジャロ講演会 inKobe 座長	6月8日	糖尿病・内分泌・総合内科 院長代行 山田 浩幸
12	日本ベーリンガーインゲルハイム 株式会社	2023 糖尿病・内分泌疾患ジャンプ アップ セミナーパネリスト	6月10日	糖尿病・内分泌・総合内科 専攻医 黒川 和磨
13	日本イーライリリー株式会社	Lilly Lung Cancer Symposium 2023 出席者	7月2日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
14	神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・総合聴覚センター	第2回聴覚障害児支援中核機能モデル 事業作業部会 委員就任	7月6日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
15	田辺三菱製薬株式会社	第10回神戸心不全ネットワークKobe Heart Failure Network 世話人会 世話人・幹事	7月6日	循環器内科 診療部長 大久保 英明
16	国立大学法人神戸大学医学部	神戸大学医学部非常勤講師として委嘱 について	7月11日	眼科 診療部長 石橋 一樹
17	アストラゼネカ株式会社	神戸循環器道場 演者	7月22日	循環器内科 医長 宇津 賢三
18	日本ベーリンガーインゲルハイム 株式会社	第101回日本呼吸器学会近畿地方会 ランチョンセミナー2 座長	7月23日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
19	日本イーライリリー株式会社	第27回 糖尿病 Team 医療研究会 座長	7月29日	糖尿病・内分泌・総合内科 部長 肥後 里美
20	神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・総合聴覚センター	第3回聴覚障害児支援中核機能モデル 事業作業部会 委員	8月3日	産婦人科 副院長 森田 宏紀

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
21	アストラゼネカ株式会社	東神戸CKD病院連携カンファレンス 講師	8月24日	腎臓内科 部長 岡田 志緒子
22	アストラゼネカ株式会社	東神戸CKD病院連携カンファレンス 座長	8月24日	腎臓内科 副院長 藤森 明
23	大鵬薬品工業株式会社	大鵬薬品工業株式会社の社内研修会 講師	8月30日	乳腺外科 院長代行 高尾 信太郎
24	一般社団法人日本くすりと糖尿病学会 第一三共、田辺三菱製薬株式会社	第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会 ランチョンセミナー3 座長	9月2日	糖尿病・内分泌・総合内科 院長代行 山田 浩幸
25	公益社団法人兵庫県看護協会	講義 フィジカルアセスメント・基礎 講師	9月12日、 13日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
26	神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・総合聴覚センター	第4回神戸市聴覚障害児支援中核機能 モデル事業協議会 委員	9月14日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
27	テルモ株式会社	糖尿病先進デバイスセミナー in Kobe 座長	9月20日	糖尿病・内分泌・総合内科 部長 肥後 里実
28	神戸赤十字病院	JMECC(内科救急・ICLS講習会) インストラクター	9月30日	腎臓内科 部長 岡田 志緒子
29	神戸赤十字病院	JMECC(内科救急・ICLS講習会) アシスタントインストラクター	9月30日	循環器内科 専攻医 坪井 孝文
30	兵庫県医師会	令和5年度第1回兵庫県医師会健康スポーツ 医学再研修会 講師	10月5日	循環器内科 参事 清水 宏紀
31	エドワードライフサイエンス株式会社	循環器疾患を考える会 inKOBÉ 座長	10月5日	循環器内科 診療部長 大久保 英明
32	第53回日本臨床神経生理学会学術大会・ 第60回日本臨床神経生理学会技術講習会 事務局	第53回日本臨床神経生理学会学術大会/ 第60回日本臨床神経生理学会技術講習 座長・演者	10月5日	救急科 部長 竹田 洋樹
33	社会医療法人愛仁会 千船病院 臓器提供体制整備委員会	院内学術講演会 演者	10月20日	救急科 部長 竹田 洋樹
34	一般社団法人芦屋市医師会	第10回芦屋緩和医療連絡協議会 講演会 講師	10月28日	緩和ケア内科 医長 田中 佑加子
35	扶桑薬品工業株式会社	穿刺時の疼痛緩和WEBセミナー 座長	11月7日	腎臓内科 副院長 藤森 明
36	住友ファーマ株式会社	みんなでかんがえるレビー小体型認知症 in KOBÉ 座長	11月14日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
37	ノボノルディスクファーマ 株式会社	外部講義 演者	11月17日	糖尿病・内分泌・総合内科 院長代行 山田 浩幸
38	公益社団法人兵庫県看護協会	講義 臨床推論:医療面接 講師	11月22日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
39	大鵬薬品工業株式会社	第22回兵庫胃がん治療研究会世話人・ 運営委員会 世話人	11月24日	低侵襲ロボット手術センター センター長 黒田 大介
40	ニプロ株式会社	第18回医療の質・安全学会学術集会 教育セミナー8 講師	11月25日	救急科 部長 竹田 洋樹

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
41	アストラゼネカ株式会社	Hyperkalemia Up to Date 講師	11月29日	循環器内科 医長 宇津 賢三
42	神戸大学大学院医学研究科	令和5年度兵庫県広域防災センター消防 学校救急救命士養成課程病院実習 講師	12月8日	救急科 部長 竹田 洋樹
43	中外製薬株式会社	KBCOGセミナー 講師・演者	12月8日	乳腺外科 医長 岡本 明子
44	大鵬薬品工業株式会社	Kobe CINV Meeting 座長	12月13日	乳腺外科 院長代行 高尾 信太郎
45	明石市こども局 明石こどもセンター	令和5年度第3回明石市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 社会的養護部会 出席者	12月19日	救急科 部長 竹田 洋樹
46	神戸マラソン実行委員会事務局	神戸マラソン2023ワールドアスレ ティックス・ロードレースラベル 医療ディレクター	10月1日 ～10月3日	循環器内科 参事 清水 宏紀
47	神戸市養護教諭研究会事務局	神戸市養護教諭研究会2学期定例研究会 講師	12月	小児科 医長 井濤 茎子
48	神戸市立医療センター中央市民 病院 耳鼻咽喉科・総合聴覚センター	第4回神戸市聴覚障害児支援中核機能 モデル事業作業部会 委員	2024年 1月11日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
49	日本メジフィジックス株式会社	第12回神戸骨シンチ・FDG-PET読影 勉強会 座長	1月16日	PETセンター センター長 鈴木 加代
50	武田薬品工業株式会社	【関西】第62回摩耶神経カンファレンス 講師	1月26日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
51	中外製薬株式会社	Neuroimmunology Seminar in HYOGO ディスカッサント	2月15日	脳神経内科 医員 中野 孝宏
52	扶桑薬品工業株式会社	第9回神戸透析フォーラム 座長	2月20日	腎臓内科 副院長 藤森 明
53	岐阜県アイバンク・臓器移植推進 財団	臓器提供の概要と適応基準について 講師	3月11日	救急科 部長 竹田 洋樹

【2023年度派遣実績:看護部・診療部門】

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
1	日本看護協会	看護師の出務について 2023年度日本看護協会 通常総会代議員研修会	2023年 5月23日	看護部 師長 野村 貞美
2	株式会社大鵬薬品工業	講演会の座長派遣について Kobe CINV Meeting	5月31日	薬剤部 部長 奥野 護
3	兵庫県看護協会	看護師の出務に関して 日本看護協会 医療安全委員会	6月16日	看護部 師長 永井 美裕貴
4	第一三共株式会社	講演会の演者派遣について Private Hospital Pharmacy Director Seminar	6月30日	薬剤部 部長 奥野 護
5	神戸大学附属中等教育学校	神戸大学附属中等教育学校への 看護職員の派遣について	7月10日	看護部 福島 あや
6	兵庫医科大学	臨床実習指導者講習会の参加について	7月15日	リハビリテーション部 主任 藤原 絢
7	学校法人甲南学園 甲南小学校	校外学習看護師の派遣について 甲南小学校3年～6年生校外学習	7月16日 ～7月19日	看護部 石井 優香、藤本 早紀
8	兵庫県看護協会	看護師の出務に関して 令和5年度認定看護管理者教育課程	7月20日、 8月4日、22日	看護部 副部長 小西 由佳利
9	コロプラスト株式会社	認定看護師の出務について 研修講師依頼 コロプラスト ストーマケアセミナー	8月5日	看護部 副師長 松島 佳子
10	一般社団法人住吉学園	看護師の派遣依頼について 住吉学園 主催 尚歯会(敬老会)への対応	9月16日	看護部副部長 正岡 ゆう子 師長 金沢 美保
11	西宮市立中央病院 関西ストーマケア 講習会・関西STOMA研究会	認定看護師の出務について 研修講師依頼	9月17日	看護部 副師長 松島 佳子
12	神戸常盤大学保健科学部 診療放射線学科	神戸常盤大学基礎実習試験の 外部評価委員への依頼	9月30日	中央放射線部 副技師長 佐野 剛士
13	バクスター株式会社	PD Scrum Seminar 高齢者における腹膜透析の役割と対策	10月19日	看護部 師長 中田 裕子
14	兵庫県看護協会	認定看護師の出務について研修講師依頼 『認知症ケアは看護の原点』	10月28日	看護部 副師長 保元 由香
15	第43回医療情報学連合大会	第43回医療情報学連合大会 実行委員委嘱について	11月1日	医療情報部 部長 杉原 敬彦
16	兵庫県看護協会	認定看護師の出務について 神戸東部支部研修会	11月4日	看護部 主任 江川 亜紀
17	株式会社メディカ出版	認定看護師の雑誌特別号の監修依頼に ついて 消化器ナーシングの監修	11月17日	看護部 師長 鈴木 愛美
18	株式会社メディカ出版	認定看護師の原稿の執筆依頼について 消化器ナーシングの監修	11月17日	看護部 副師長 松島 佳子
19	兵庫県看護協会	認定看護師の出務について 感染症・感染予防 研修会支援	11月17日	看護部 師長 窪田 順江
20	兵庫県放射線技師会	兵庫県放射線技師会学術大会 市民公開講座講師依頼について	11月26日	中央放射線部 診療部長 甲山 精二

No.	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
21	神戸女子大学看護学部	学生実習に係る看護師の出務について 実習指導者対象	12月16日	看護部 師長 高尾 辰徳
22	神戸女子大学	学生実習に係る看護師の出務について	12月16日	看護部 副部長 正岡 ゆう子
23	園田学園女子大学	園田学園女子大学への認定看護師の 出務について 講師依頼	2024年 1月17日	看護部 主任 川人 一展
24	神戸大学医学部附属病院	看護師の出務について 地域がん診療連携 拠点病院機能強化事業カファルス指導・助言	1月25日	看護部 播本 優子
25	神戸大学医学部附属病院	看護師の出務について 地域がん診療連携 拠点病院機能強化事業カファルス指導・助言	1月25日	看護部 主任 江川 亜紀
26	住吉ファーマ株式会社	看護師の出務について 看護師講師依頼	2月15日	看護部 朝田 一弘
27	大阪府訪問看護ステーション協会	認定看護師の出務について 研修会ファシリテーター派遣依頼	2月22日	看護部 安岡 裕美
28	キッセイ薬品工業株式会社	専門看護師の出務について 兵庫県透析 従事者研究会春季WEBセミナー講演会講師	3月14日	看護部 永友 舞
29	コンバックジャパン株式会社	認定看護師の出務について 研修講師依頼	3月16日	看護部 副師長 松島 佳子

(オ)その他の研修

(a)救急症例検討会

近隣消防救急隊とともに救急搬送された患者のその後の経過、退院転院状況についての説明、疾患についての講義等を行い、救急隊の技量・質の向上を図る。

【2023年度開催実績】

	研修会名	開催日	開催場所	講師(指導者)	参加者・人数
1	甲南医療センター救急セミナー	2023年9月20日	甲南医療センター	甲南医療センター医師	20名 (看護師、東灘消防職員等)
2	甲南医療センター救急セミナー	11月29日	甲南医療センター	甲南医療センター医師	14名 (看護師、東灘消防職員等)
3	甲南医療センター救急セミナー	12月6日	甲南医療センター	甲南医療センター医師	19名 (看護師、東灘消防職員等)

(b)認知症疾患医療センター症例検討会

認知症疾患医療センターは認知症患者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活が出来るための支援の1つとして、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置するもので、甲南医療センターは神戸市から指定を受け、その運営を行っている。同センターにおいて、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を目指すために、地域のかかりつけ医・介護施設の医療従事者等を対象にした症例検討会を行う。

【2023年度開催実績】 ※参加費は無料

	研修会名	開催日	開催場所	講師	参加対象・人数
1	認知症地域連携拠点事業事例検討会	2023年6月29日	甲南医療センター	担当ケアマネジャー、甲南医療センター医師・精神保健福祉士	医療介護関係者17名
2	認知症地域連携拠点事業研修会	9月14日	甲南医療センター	朝日新聞社メディア事業	医療介護関係者26名

(C)ICLS(Immediate Cardiac Life Support)コース

ICLSとは、医療機関の為に蘇生トレーニングのことである。甲南会の同コースは、日本救急医学認定コースとなっており、外部医療機関の医療関係者も参加可能なコースとして門戸を広げている。

【2023年度開催実績】

	研修会名	開催日	開催場所	参加者・人数
1	第14回ICLS研修会	5月27日	甲南医療センター	甲南医療センター職員14名、六甲アイランド甲南病院職員3名、神鋼記念病院1名
2	第15回ICLS研修会	10月14日	甲南医療センター	甲南医療センター職員15名、神戸大学医学部附属病院1名、六甲アイランド甲南病院職員1名、神鋼記念病院1名
3	第16回ICLS研修会	2月17日	甲南医療センター	甲南医療センター職員15名、六甲アイランド甲南病院職員1名、神鋼記念病院2名



(力)研修医の育成

診療に従事しようとする医師は、2年以上医学履修過程を置く大学附属病院または医師臨床研修指定病院において研修を受けなければならない。

臨床研修指定病院は、基幹型臨床研修病院と協力型臨床研修病院の2つに分類される。

基幹型臨床研修病院： 独自に研修医を雇用し研修プログラムを実施

協力型臨床研修病院： 基幹型病院の研修プログラムの一部を担う

甲南会は、2病院で臨床研修指定病院の指定を受けており、全国から幅広く研修医を募集して受け入れ、将来の地域医療を担う医師の育成に取り組む。

甲南医療センター： 基幹型病院として急性期医療を通じて様々な症例に対する基本的な知識・技術を習得させるための独自プログラムを作成し、医師の育成に取り組む。

六甲アイランド甲南病院： 協力型病院として、他の基幹型病院が自院での研修が難しい分野において、そのプログラムの一部を担い医師の育成にあたる。

【2023年度月別研修医数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23	22	22	21	22	22	21	21	22	21	20	23	260

(a)JMECC(Japanese Medical Emergency Care Course)コース

JMECCとは、心肺蘇生と重篤な急性疾患や病態悪化に適切に対応するための基礎を学ぶ画期的なシミュレーション・プログラムである。このプログラムは、日本救急医学会策定のICLSを基礎に日本内科学会独自の「内科救急」をプログラムに導入した講習会であり、内科専門医となる為には必修とされている。また、講習会は基幹型臨床研修病院であれば、自施設での開催が原則となっている。

甲南医療センターでは、基幹型臨床研修病院であることから2022年度より開催する運びとなった。

【2023年度開催実績】

	研修会名	開催日	開催場所	参加者・人数
1	第1回JMECC研修会	1月27日	甲南医療センター	受講生12名、指導者16名、タスク3名

イ 紹介患者や地域住民に対する健康増進や疾病予防への取り組み

(ア) 紹介患者に対する医療提供

健康相談を通じ、住民に気軽な受診を促し、特にフレイル(加齢により心身が老い衰えた状態)や健康障害への見識を高め、適切な受診行動につながるよう支援する。

【2023年度保健相談室設置実績】 ※参加費は無料

開催回数、 参加者数	相談内容(複数選択あり)								合計
	身体 の 異常	健康診断 結果	運動	フレイル・ 認知症	栄養	介護	薬	その他	
12回 (第2金曜日/月) 参加者 計49名	26	2	6	34	9	0	1	10	88

(イ) 啓発イベント

講演会、予防体操、ヨガ、フットケア等の実践を通じた幅広い啓発イベントを行い、参加者自身の自発的な活動を支援する。

【2023年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	担当	開催回数、 実施日	開催場所	参加者・人数
1	オンラインセミナー 「ベビーマッサージ」	助産師	10回	甲南医療センター	1～5組/回(計24組) 当院で分娩した母児または 産後ケアを利用した父母児
2	オンラインセミナー 「睡眠講座」	助産師	2回	甲南医療センター	3～5組/回(計8組) 当院で分娩した母児または 産後ケアを利用した父母児
3	メディケアマンション 健康セミナー 『COVID19これからの対策』	感染管理認定看護師 松井 悠子	1回 (6月28日)	イーストコート11番街 コミュニティホール	メディケアマンション 入居者 25名
4	出前授業 「生命の尊さ」について考える	看護師・助産師	1回 (7月10日)	神戸大学附属 中等教育学校	1年生 96名 教員 5名
5	フレイル予防啓発イベント	認知症看護認定看護師 別府 恵子	1回 (10月22日)	神戸ファッション・ プラザサン広場	地域住民 約30名

(ウ) 健康教室

疾病予防の啓発を行い、健康増進を図る。

【2023年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	担当	開催日	開催場所	参加者・人数
1	腎臓病教室	医師・看護師・栄養士・薬剤師・ 医療ソーシャルワーカー	12月6日	甲南医療センター	外来患者、 家族合わせて42名
2	糖尿病教室	医師・看護師・栄養士・ 薬剤師・検査技師・療法士・ 事務員	12月15日	甲南医療センター	外来患者8名、 入院患者8名 計16名

(エ)認知症サロン

認知症の者等(認知症の者及び軽度認知障害(MCI)の者をいう)、その家族ならびにその他の市民に対して、医療的な視点を踏まえて行う認知症に関する教育・予防・相談・交流・情報発信・普及啓発ならびに認知症の者等本人発信及び社会参加の支援であり、神戸市が指定する認知症疾患医療センターが行う診断等支援機能としての必須事業である。

認知症疾患医療センターが実施する認知症サロンで、以下のいずれかに該当するものとする。

- ・認知症の疾患教育、ケアの方法等認知症についての知識の向上に関すること
- ・認知症の運動・栄養等に関する教室等の予防に関すること
- ・認知症についての相談に関すること
- ・認知症の者及びその家族同士の交流に関すること
- ・認知症の者によるピアサポート活動に関すること
- ・認知症の者等の家族によるピアサポート活動や家族のレスパイトケアに関すること
- ・認知症に関する情報発信に関すること
- ・認知症に対する理解を得るための普及啓発に関すること
- ・その他認知症の者等及びその家族を支援するもので市長が認めるもの

【2023年度開催実績】 ※参加費は無料

No.	内容	開催日	開催場所	対象者
1	コグニラボ	偶数月最終火曜日	甲南医療センター	地域住民
2	もの忘れおしゃべり教室	奇数月最終火曜日	甲南医療センター	地域住民
3	VR体験会	2023年10月10日～10月13日 11月27日～12月1日 2024年1月22日～1月26日	甲南医療センター	医療関係者
4	WEB上映会	2024年2月19日～2月25日	WEB	地域住民、 医療介護関係者

(オ)市民公開講座

地域住民に対する健康増進、疾病予防の為の公開講座を開催する。

※コロナ感染症の感染拡大防止を鑑み、院内に設置したデジタルサイネージにて講座内容を放映した。

【2023年度デジタルサイネージ放映実績】

放映期間	形式	講師	タイトル
2023年4月 ～ 2024年2月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療
2024年4月 ～ 2024年3月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一 働き方改革 厚生労働省 ACP	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療 (行政の広報) 人生会議(ACP/アクセスケアプランニング)について 院内外啓蒙用

上記に記載した事業内容は、第3次医療法改正により創設された「地域医療支援病院」の医療機能区分と重なるものである。

※甲南医療センターは、2020年7月に兵庫県より「地域医療支援病院名称承認」を受けた。



(カ)妊婦向けセミナー

妊娠中の食生活や歯の健康、妊娠を楽しむ工夫、妊娠体操、出産準備品の紹介、お産の経過や過ごし方についての啓発活動等を行う。

【2023年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	運営	実施状況	開催場所	参加者・人数
1	マタニティ・セミナー	助産師	年38回開催	甲南医療センター	2～10人/回 (計199人/年) 当院分娩予定の妊婦とパートナー(または家族)が参加
2	オンラインセミナー 「ベビーマッサージ」	助産師	年10回開催	甲南医療センター	1～5組/回(計24組) 当院で分娩した母児または産後ケアを利用した父母児

(キ)紹介患者に対する医療提供

地域のかかりつけ医から紹介のあった患者さんに対して、積極的に医療の提供を行い、治療後は、元のかかりつけ医へ逆紹介を行うことで、患者さんの治療とその後の療養へのスムーズな転換が可能となる。

【2023年度紹介率・逆紹介率実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
紹介患者数	979	979	1,198	1,012	924	883	945	963	854	864	918	909	11,428
紹介率(%)	80.9%	82.3%	93.3%	87.1%	78.8%	89.8%	88.6%	86.8%	75.4%	80.1%	81.2%	84.6%	84.1%
逆紹介患者数	1,311	1,381	1,388	1,387	1,424	1,327	1,304	1,293	1,242	1,303	1,213	1,356	15,929
逆紹介率(%)	108.3%	116.1%	108.1%	119.4%	121.5%	135.0%	122.3%	116.6%	109.6%	120.9%	107.3%	126.1%	117.2%

(2)地域完結型医療を推進する事業

ア 兵庫県保健医療計画に基づく「5疾病5事業及び在宅医療」に対する取り組み

兵庫県は、急速な少子高齢化、医師の地域偏在、診療科偏在、疾病構造の変化など、保健医療を取り巻く状況の変化を踏まえ保健医療計画をまとめており、その中で地域の実情に応じて適切な医療連携を構築することが必要な項目を「5疾病5事業及び在宅医療」として定めている。その中には、小児、周産期等、採算性の観点や医療人材確保の問題から、神戸医療圏においても民間医療機関の撤退が続く分野も含まれている。

甲南医療センター及び六甲アイランド甲南病院においては、この「5疾病5事業及び在宅医療」(へき地医療は除く)を中心とした医療全般の提供に取り組みつつ、地域医療連携の要となつて、地域完結型医療を推進する取り組みを行った。

(ア)救急医療

救急医療は、社会環境、疾病構造の変化等と密接に連携しており、近年、需要と重要性が高まっている。一方で、救急医療に参加する医療機関は、減少傾向にあり、拡大していく救急医療の必要に応え、救急体制を強化した。

【2023年度月別救急受入件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救急搬送 件数	549	593	566	674	687	539	586	578	595	615	565	604	596
ワーク イン	512	689	564	671	662	517	522	540	539	558	460	457	558

神戸市二次救急病院協議会の休日・夜間救急医療輪番制に参加して、内科・外科等の基本診療科の他、循環器、脳疾患、整形外科、小児科等、他の病院では対応できない診療科目においても積極的に対応する。また、断らない救急を徹底し、地域中核病院として中心的な役割を果たすことを目指した。

甲南会の2病院(甲南医療センター・六甲アイランド甲南病院)で連携し、24時間365日ほぼ全診療科の受入を可能とした。

【2023年度神戸市二次救急病院協議会 休日・夜間救急医療輪番対応実績数】

	内科	外科	循環器	脳疾患	整形外科	小児科	合計
4月	8	1	8	5	2	8	32
5月	8	1	8	5	2	10	34
6月	6	1	8	5	2	7	29
7月	7	2	8	4	2	9	32
8月	7	2	7	6	2	8	32
9月	8	1	7	5	2	8	31
10月	7	2	8	5	2	8	32
11月	7	2	7	6	3	8	33
12月	7	2	8	5	2	10	34
1月	8	2	7	4	2	9	32
2月	7	1	6	4	3	7	28
3月	8	2	6	4	3	8	31
合計	88	19	88	58	27	100	380

(イ)母子医療(小児・周産期医療)

少子化社会においては、分娩数、子供の数は減少傾向にある。しかし、核家族化による親の育児不安と大切に子供を育てたいという意識の強まりにより、小児科受診及び救急のニーズは高まっている。また、周産期医療においても、出産年齢の高齢化、低出生体重児の増加で対象者リスクが増し、訴訟リスクが高まっている。それにより、小児科医・産婦人科医は長時間の拘束・過重労働を余儀なくされ、その結果、志望医師の減少、民間の医療機関のこの分野からの撤退を招いている。神戸市でも東灘区、灘区に小児の入院できる病院は甲南医療センター以外にはなくなった。

この現状の中、甲南会は、地域の母子医療を守り、支えていくことを目指した。

甲南会小児科医療は、神戸・三田小児医療連携圏域の小児二次医療機能を担い、24時間365日入院医療を要する小児救急に対応する「小児地域医療センター」に指定されており、圏域の小児医療の中核病院としての機能を担った。

【2023年度小児科救急受診患者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間外患者数	47	87	66	71	70	79	59	69	67	55	38	51	759
時間外入院	26	35	25	35	29	34	25	33	26	31	23	22	344

圏域の周産期母子医療センターと協力して、ハイリスク妊産婦またはハイリスク新生児に対して、二次救急を行う「協力病院」として指定されており、公的医療機関と連携しながら、ハイリスク周産期医療に対応した。

【2023年度産婦人科救急受診患者数 ()内は妊婦】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9 (14)	16 (12)	16 (11)	17 (13)	11 (7)	17 (13)	21 (16)	17 (14)	15 (14)	17 (12)	11 (10)	12 (8)	179 (134)

出産後24時間以内に小児科の診察を行う等、産科と小児科が一体となって、新生児のケアにあたり、新生児から小児期まで切れ目のない診療体制を構築し、ハイリスク新生児の対応にあたる。

(ウ)災害医療

甲南医療センターは、地震・津波・台風等の災害発生時に、災害医療を行う医療機関を支援する「災害対応病院」として神戸市から指定されており、災害時医療を担っていく下記の体制を構築した。

(a)災害時の対応

- ・被災地の傷病者等の患者の受入及び治療を行う。
- ・市の災害対策本部が設置する救護所に対し、備蓄医薬品や衛生資材等を提供する。
- ・DMATやその他救護班の受入および市が設置する救護所に対し必要な医療活動を実施する。

(b)平常時の対応

- ・医薬品、衛生資材等の備蓄および対応資機材を整備する。
- ・市が実施する防火訓練、研修会へ参加する。
- ・市が設置する神戸市地域災害救急医療対策会議へ参加する。

【2023年度自衛消防訓練実績】

	内容	開催日	開催場所	参加者・人数
1	防火訓練	4月11日 16時～17時	甲南医療センター 東2階病棟	医師・看護師・コメディカル・ 事務職含む 40名
2	防火訓練・防災訓練	3月19日 16時～17時	甲南医療センター 東2階病棟	医師・看護師・コメディカル・ 事務職含む 15名

(工)重点疾病対策

兵庫県は、県民の健康の保持を図るために広範かつ継続的な医療の提供が必要な、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患を5疾病として、医療供給体制の構築を計画している。甲南会では、この5疾病に対して、地域医療の中核病院として医療資源を投入し、重点的に取り組んだ。

(a)がん対策

- ・消化器病センターを設けて、食道から直腸肛門までの、消化管及び肝胆膵領域の消化器系がんに対応するとともに、その他のがん全般にも対応した。
- ・PETセンターを設けて、早期がん細胞の発見に努めた。
- ・緩和ケア病棟を設けて痛みなどの症状コントロール中心の終末期医療を行った。
- ・がん予防対策の1つとして、喫煙の健康への影響に関して啓発活動に努め、六甲アイランド甲南病院では、専門外来を設け、保険適用で禁煙指導を行った。

【2023年度緩和ケア病棟運用実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均患者数	11.8	15.9	14.6	17.4	16.6	15.1	17.8	16.5	16.1	16.7	17.6	18.0	16.2
在宅等への復帰率(%)	34.6	35.3	35.0	43.2	55.0	41.2	62.5	34.5	38.2	42.3	43.3	31.6	41.1

(b)脳卒中・脳血管疾患対策

- ・急性期血行再建術に取り組み、脳神経内科および救急科と密な連携を図り、救急患者を受け入れた。

【2023年度脳外科救急受入件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
時間外患者数	14	26	20	23	16	12	21	23	18	20	12	15	18.3
休日夜間初診	13	19	13	21	16	11	18	19	17	16	10	13	15.5

- ・六甲アイランド甲南病院にある回復期リハビリテーション病棟(60床)にて、回復期の患者を受け入れ、医学的、社会的、心理的にサポートを行い、日常生活動作の改善を図り家庭復帰を支援した。

【2023年度六甲アイランド甲南病院回復期リハビリテーション病棟実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均患者数	57.9	56.8	55.9	56.2	58.0	58.2	58.0	56.4	58.3	57.5	58.8	57.5	57.5
在宅等への復帰率(%)	96.3	92.3	85.3	87.1	90.3	100	93.5	100	100	86.8	85.0	90.9	92.3

(c)心血管疾患対策

- ・急性期血行再建術に取り組み、脳神経内科および救急科と密な連携を図り、救急患者を受け入れた。
- ・入院病棟内に心臓リハビリテーション室を設け、入院患者数が無理なくリハビリに取り組みやすくなった。

【2023年度IVR件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
172	162	165	166	165	149	170	186	176	160	164	177	2,012

(d)糖尿病対策

- ・糖尿病センターを設け、患者教育、CSII、CGM、周産期管理、妊娠糖尿病の血糖管理を積極的に取り組み、地域の糖尿病患者診療を支えた。
- ・複数の診療科、看護師、薬剤師、栄養士等の複数の職種のスタッフが協力し、チーム医療として血糖コントロール、合併症検査・治療、患者教育指導にあたった。

【2023年度糖尿病療養指導件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
56	54	58	43	53	55	60	57	59	58	57	53	663

(e)精神疾患・認知症疾患対策

認知症疾患医療センターでは、地域の保健医療・介護機関などと連携を図りながら認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、周辺症状と身体合併症の急性期治療に関する対応、専門治療相談などを実施することにより、認知症疾患患者とその家族が住み慣れた地域で安心して過ごすための支援を行った。

イ 無料低額診療事業

甲南医療センター、六甲アイランド甲南病院の患者を対象に、経済的事由から診療が困難な患者の、保険診療自己負担分の一部または全額免除を行いました。治療費の免除にあたっては、「施療・減額患者取扱規程」に基づき、公正な運営を行っている。

(単位:円)

			甲南医療センター	六甲アイランド 甲南病院	甲南加古川病院	合計
診療報酬	診療報酬	外来	300,701,954	67,704,350	84,244,980	452,651,284
		入院	3,150,422	0	7,636,550	10,786,972
		合計	303,852,376	67,704,350	91,881,530	463,438,256
	減額金額	外来	30,477,941	7,330,649	9,089,460	46,898,050
		入院	647,760	0	1,427,440	2,075,200
		合計	31,125,701	7,330,649	10,516,900	48,973,250
	減額率(%)		10.20%	10.80%	11.40%	10.50%
取扱患者数	取扱患者数	外来	207,109	67,902	38,108	313,119
		入院	142,437	64,737	34,835	242,009
		合計	349,546	132,639	72,943	555,128
	減額患者数	外来	33,748	11,031	6,574	51,353
		入院	4,875	3,383	792	9,050
		合計	38,623	14,414	7,366	60,403
	減額率(%)		11.0%	10.8%	10.0%	10.8%

上記「取扱患者数」は、地方税法第348条第2項第10号の適用により、公益目的事業の用に供している固定資産の固定資産税等非課税適用割合に適用されます(10%以上の場合は全額非課税適用)。

4. 2023年度決算概況（別紙「決算概況表」「設備投資の状況」参照）

（1）甲南会全体概況

①収支概要

当年度収支は、2020年からの新型コロナウイルス感染症蔓延により、全国の医療機関が引き続き甚大な影響を受けていた頃から収束へ向かっていった状況下で、前年度において計上した新型コロナウイルス感染症対応補助金3,148百万円を含む補助金収入額（施設補助金収入を含む）は、3,238百万円から今年度1,595百万円に半減した影響もあり、経常収支はプラス381百万円の計上に留まりました。（対前年度比1,844百万円減益）

その内訳として、入院診療収入（室料差額収入を含む）は、前年度比701百万円増の14,283百万円となりました。

また、外来診療収入は、前年度比177百万円増の5,009百万円となり、その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比904百万円増の20,080百万円と、初めて200億円の大台を計上致しました。

一方、医業費用（事業費及び管理費、以下同じ）は、材料費で前年度比413百万円、給与費で388百万円、委託費で63百万円、設備関係費で238百万円（うち減価償却費の増加221百万円）とそれぞれ増加となり、その他の費用を含めた医業費用総額で前年度比1,236百万円増の21,480百万円となり、その結果、医業収支は前年度比331百万円悪化のマイナス1,400百万円となりました。

なお、今年度は2024年4月1日付けにて甲南加古川病院を医療法人伯鳳会に事業譲渡したことに伴う3月末退職・医療法人伯鳳会への転籍者に対する退職金加算額等225百万円を経常外費用として計上したことから、法人税等税引後の一般正味財産増加額（当期純利益）は132百万円となりました（指定正味財産からの振替額13百万円を含む）。

②正味財産

上記2023年度収支の結果、正味財産は前年度比118百万円増の5,146百万円となりました。

③キャッシュ・フロー

2023年度キャッシュ・フローは、「事業活動」によるキャッシュ・インが3,542百万円と前年度比311百万円の減少となりました。これは、新型コロナウイルス感染症収束状況による補助金収入額の減少（前年度比642百万円の減少）を含めての減であり、医業によるキャッシュ・インは引き続き堅調に推移しております。

一方、「投資活動」は、前年度において甲南医療センター増改築工事代金の支払いを主因としてトータル3,833百万円のキャッシュ・アウトとなりましたが、今年度は医療機器等の購入によるキャッシュ・アウトが613百万円を含めトータル579百万円のキャッシュ・アウトとなっております。

また、「財務活動」は、新規借入れを行わなかった一方で、短期借入金（750百万円）の返済に加え、2024年4月1日付けの甲南加古川病院の事業譲渡に起因した長期借入金の任意返済（810百万円）も行った結果、トータル3,235百万円のキャッシュ・アウトとなりました。（前年度は新規借入額3,174百万円を含めトータル187百万円のキャッシュ・アウト）

以上の結果、2023年度の「現金及び現金同等物の増減」はマイナス272百万円となりました。

(2) 各施設収支概況

①甲南医療センター

2019年10月に六甲アイランド甲南病院との間で行った医療機能の再編により、入院病床343床の稼働となった甲南医療センターは、その後の東館(旧新館)の改修等により2023年3月末以降稼働病床数は461床となっております。

また、2020年度7月には、兵庫県より地域医療支援病院の承認を受け、2023年度の紹介率は84%(前年度実績79%)、逆紹介率は117%(同105%)となっております。

加えて、不断の救急医療にも取り組み、2023年度救急搬送受入件数は7,151件(前年度実績6,104件)となっております。

上記の経営環境において、甲南医療センターの今年度経常収支は新型コロナウイルス感染症収束に伴う運営補助金の減少(前年度比886百万円減の922百万円の計上)が大きく影響し、マイナス108百万円(対前年度比1,218百万円減)となりました。

その内訳として、入院診療収入は患者数が一日あたり18名増加、また診療単価(患者一名一日あたり、以下同じ)が292円上昇したことにより、前年度比567百万円増の9,882百万円となりました。

また、外来診療収入も患者数が一日あたり16名増加したことに加え、診療単価も878円上昇したことにより、前年度比246百万円増の3,615百万円、室料差額その他医業収入を含めた医業収入総額では、前年度比862百万円増の13,876百万円の計上となりました。

一方、医業費用は職員増加(前年度比40名増)による給与費負担額の増加(前年度比415百万円の増加)、材料費の増加(前年度比415百万円の増加)、甲南医療センター増改築部分及び高額医療機器設置による減価償却費の増加(前年度比211百万円)を含め、前年度比1,216百万円増の14,937百万円となり、医業収支は前年度比353百万円悪化のマイナス1,061百万円となりました。

②六甲アイランド甲南病院

2019年10月に甲南医療センターとの間で行った医療機能の再編により、入院病床198床の稼働となった六甲アイランド甲南病院は、同月より2階をリハビリテーションセンターとして、また5階と6階を回復期リハビリテーション病棟に改修する工事に入り、2020年3月末には同工事完成、その後、同年9月に急性期一般病床(10対1)34床、地域包括ケア病床104床、回復期リハビリテーション病床60床として入院医療を提供しております。

上記の経営環境において、六甲アイランド甲南病院の今年度経常収支は、新型コロナウイルス感染症収束に伴う運営補助金計上額の減少(前年度比マイナス391百万円)による影響もあり、前年度比357百万円の減益となりましたがプラス201百万円を計上することができました。

その内訳として、入院診療収入は、前年度において影響があった新型コロナウイルス感染症蔓延により入院患者の減少と診療単価の上昇という医療収入の環境であったところから、今年度は例年ベースの収入環境となった結果として前年度比147百万円増の2,352百万円となりました。

また、外来診療収入は診療単価が横ばいであったなか、一日当たりの患者数が前年度に引き続き減少(▲17名)したことが要因となり、前年度比50百万円減の806百万円となりましたが、室料差額その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比101百万円増の3,401百万円の計上となりました。

一方、医業費用は前年度比78百万円増の3,555百万円となり、医業収支は医療収入額の増加が医療費用の増加を上回り前年度比22百万円改善のマイナス154百万円となりました。

③甲南加古川病院

甲南加古川病院の当年度経常収支は、新型コロナウイルス感染症収束に伴う運営補助金計上額の減少(前年度比マイナス368百万円)による影響もあり、134百万円(対前年度比401百万円減)となりました。

その内訳として、入院診療収入は患者数が一日あたり3名増加した一方で、診療単価が3,473円下降したことにより、前年度比50百万円減の1,566百万円となりました。

また、外来診療収入は患者数が一日あたり5名の減少、診療単価も19円下降したことにより、前年度比18百万円減の587百万円となり、室料差額その他医業収入を含めた医業収入総額では、前年度比74百万円減の2,201百万円の計上となりました。

一方、医業費用は前年度比42百万円減の2,363百万円の計上となり、医業収支は前年度比31百万円悪化のマイナス162百万円となりました。

④甲南介護老人保健施設

甲南介護老人保健施設の当年度経常収支は、入所及び短期入所は改善基調にあるものの、通所は前年度に引き続き減少傾向にあり、前年度に比し改善したもののマイナス8百万円の計上となりました。

⑤甲南訪問看護ステーション

甲南訪問看護ステーションの当年度経常収入は、訪問スタッフ減少による訪問件数減少により、前年度比13百万円減少の128百万円となった一方で、給与費も前年度比12百万円の減少となり、医業収支は前年度比1百万円減の23百万円、経常収支は前年度比1百万円減の24百万円の計上となりました。

5. 附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はございません。

【決算概況表】

【財産の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
適用会計基準		病院会計基準	公益会計基準				
【資産の部】							
流動資産		3,541	5,877	7,630	8,266	7,399	
	現金預金	(2,125)	(2,769)	(4,198)	(4,030)	(3,727)	
固定資産		23,587	26,117	25,328	26,522	25,132	
	有形固定資産	22,501					
	無形固定資産	104					
	その他の資産	981					
	基本財産		8,580	8,400	14,886	14,555	
	特定資産		333	329	2	1	
	その他の固定資産		17,203	16,599	11,633	10,575	
		土地(うち書き、以下同じ)	(2,260)	(2,260)	(2,260)	(2,260)	(2,260)
		借地権	(92)	(1,122)	(1,122)	(1,856)	(1,856)
		建物・構築物	(15,801)	(16,095)	(16,129)	(27,930)	(28,018)
		建設仮勘定	(9,435)	(10,600)	(10,628)	(12)	(0)
		医療器械備品	(7,274)	(7,512)	(7,338)	(7,329)	(7,893)
		償却累計額	(△14,123)	(△14,423)	(△15,075)	(△16,626)	(△18,423)
資産 合計		27,128	31,994	32,959	34,788	32,531	
【負債の部】							
流動負債		4,369	5,118	7,674	5,712	5,849	
固定負債		21,812	24,958	22,489	24,049	21,536	
	短期借入金	(120)	(1,500)	(1,500)	(750)	(0)	
	長期借入金(一年内返済額を含む)	(19,222)	(22,495)	(22,022)	(22,661)	(20,249)	
負債 合計		26,181	30,077	30,164	29,761	27,385	
【純資産・正味財産の部】							
純資産額		946					
正味財産			1,917	2,794	5,027	5,146	
	指定正味財産		1,478	1,476	1,502	1,488	
	一般正味財産		438	1,318	3,524	3,657	
純資産・正味財産 合計		946	1,917	2,794	5,057	5,146	

【収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
適用会計基準		病院会計基準	公益会計基準			
経常収入		16,361	18,199	20,362	22,710	22,123
医業収入	医業収入	16,005	17,509	18,621	19,175	20,080
	入院診療収入(室料差額収入を含む)	(10,395)	(12,429)	(13,094)	(13,582)	(14,283)
	外来診療収入	(4,153)	(4,300)	(4,692)	(4,832)	(5,009)
	老人保健施設収入	(500)	(494)	(506)	(437)	(461)
	訪問看護収入等	(115)	(132)	(149)	(169)	(154)
	賃料収入等(公益法人会計基準により計上範囲変更)	254	128	129	129	143
	運営補助金・施設補助金収入	41	306	1,443	3,238	1,595
	コロナ関連補助金収入(休床・空床補償)	—	(0)	(764)	(2,543)	(1,359)
	コロナ関連補助金収入(上記以外)	—	(250)	(603)	(605)	(97)
	寄附金収入	4	147	41	36	140
	その他の収入	54	107	126	130	164
経常費用		16,665	18,328	19,465	20,485	21,742
医業費用	医業費用	16,208				
	医業外費用	456				
	事業費		18,074	19,395	20,421	21,682
	管理費(2021年度～本部経費配賦基準見直し)		254	69	63	59
	材料費	(3,187)	(3,484)	(3,948)	(4,201)	(4,615)
	給与費	(8,595)	(9,378)	(9,627)	(9,902)	(10,291)
	委託費	(1,211)	(1,412)	(1,488)	(1,532)	(1,595)
	設備関係費	(1,369)	(1,795)	(1,979)	(2,368)	(2,607)
	研究研修費	(29)	(22)	(27)	(30)	(35)
	本部費	(255)	(公益法人会計基準適用により給与費等に計上)			
	その他医業関係費用	(1,560)	(1,722)	(1,950)	(2,208)	(2,335)
	医業外費用	—	(513)	(444)	(241)	(261)
経常収支		(△304)	(△128)	897	2,225	381
(医業収支)		(△203)	(△305)	(△399)	(△1,068)	(△1,400)
経常外収入		6	13	7	1	2
経常外費用		55	243	1	1	229
税引前純利益・一般正味財産増減		(△352)	(△358)	902	2,226	154
法人税等		26	13	23	19	21
当期純利益・一般正味財産増減		(△379)	(△371)	879	2,206	132

【キャッシュ・フローの状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
事業活動によるキャッシュ・フロー	不作成	△823	2,341	3,853	3,542
投資活動によるキャッシュ・フロー		△3,004	△401	△3,833	△579
財務活動によるキャッシュ・フロー		4,608	△511	△187	△3,235
現金及び現金同等物の増減	538	780	1,428	△167	△272

【施設別収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
甲南医療センター	医業収入	8,207	11,004	12,123	13,013	13,876
	(入院診療収入)	(5,505)	(7,724)	(8,451)	(9,314)	(9,882)
	[入院患者数<人:1日平均>]	206	310	315	336	354
	[入院単価(円)]	48,920	68,360	73,582	75,840	76,132
	(外来診療収入)	(2,246)	(2,803)	(3,172)	(3,369)	(3,615)
	[外来患者数<人:1日平均>]	530	714	798	836	852
	[外来単価(円)]	13,681	16,154	16,425	16,582	17,460
	医業費用	8,575	11,451	12,488	13,721	14,937
	医業収支	△367	△447	△364	△708	△1,061
	医業外収支(補助金を除く)	△106	△154	△201	6	25
	補助金収入	22	275	1,390	1,812	927
	経常収支	△451	△326	823	1,110	△108
六甲アイランド甲南病院	医業収入	5,004	3,674	3,606	3,299	3,401
	(入院診療収益)	(3,328)	(2,431)	(2,478)	(2,205)	(2,352)
	[入院患者数<人:1日平均>]	216	175	179	154	172
	[入院単価(円)]	56,229	38,072	37,968	39,152	37,211
	(外来診療収益)	(1,362)	(897)	(889)	(856)	(806)
	[外来患者数<人:1日平均>]	569	344	318	296	279
	[外来単価(円)]	11,604	11,194	11,538	11,883	11,879
	医業費用	4,985	3,649	3,641	3,476	3,555
	医業収支	18	25	△35	△177	△154
	医業外収支(補助金を除く)	△61	△121	2	6	18
	補助金収入	18	20	37	729	337
	経常収支	△23	△75	5	558	201
甲南加古川病院	医業収入	2,176	2,212	2,249	2,275	2,201
	(入院診療収益)	(1,561)	(1,565)	(1,570)	(1,616)	(1,566)
	[入院患者数<人:1日平均>]	103	103	104	89	92
	[入院単価(円)]	40,191	41,836	41,434	49,672	46,199
	(外来診療収益)	(580)	(599)	(630)	(606)	(587)
	[外来患者数<人:1日平均>]	177	172	168	162	157
	[外来単価(円)]	11,348	14,349	15,460	15,340	15,321
	医業費用	2,097	2,172	2,283	2,406	2,363
	医業収支	78	39	△34	△131	△162
	医業外収支(補助金を除く)	△12	△9	△4	△2	△4
	補助金収入	1	2	11	670	301
	経常収支	66	33	△27	536	134

【施設別収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
甲南介護老人保健施設	医業収入		509	503	517	445	473
		(老人保健施設収益)	(500)	(494)	(506)	(437)	(461)
		〔入所患者数<人:1日平均>〕	78	77	77	66	72
		〔入所単価(円)〕	14,890	15,278	15,710	15,722	15,545
		〔通所患者数<人:1日平均>〕	26	25	24	20	17
		〔通所単価(円)〕	10,521	10,599	11,320	10,457	11,136
	医業費用		464	458	499	522	519
	医業収支		45	44	18	△76	△46
	医業外収支(補助金を除く)		8	9	10	9	10
	補助金収入		0	4	4	24	27
	経常収支		54	59	32	△42	△8
甲南訪問看護ステーション	医業収入		107	115	124	141	128
		(訪問看護収入)	(54)	(58)	(65)	(81)	(69)
		(メディケア収入)	(46)	(46)	(46)	(46)	(46)
		(居宅介護支援収入)	(6)	(9)	(12)	(14)	(13)
	医業費用		84	90	108	116	104
	医業収支		22	24	16	25	23
	医業外収支(補助金を除く)		0	0	0	0	0
	補助金収入		0	1	0	0	0
	経常収支		22	25	16	25	24

【設備投資の状況(当年度<10百万円以上)】

(単位:百万円(単位未満切捨))

資産区分	内容	金額	補正事項/設置場所等
建物附属設備	吸収式冷温水発生装置	32	甲南加古川病院
	エレベーターリニューアル工事	10	六甲アイランド甲南病院
構築物	門塀入口外構工事	22	甲南医療センター
医療機器	低侵襲手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」(附属設備等を含む)	252	甲南医療センター
	全身用エックス線CT装置	147	甲南医療センター
	マイク口頭微鏡	47	甲南医療センター
	多目的デジタルエックス線TVシステム	33	甲南医療センター
	歯科口腔外科増設に係る医療機器等整備	27	甲南医療センター
	乳房エックス線撮影装置	17	六甲アイランド甲南病院
	デジタルラジオグラフィティ	16	六甲アイランド甲南病院
その他の器械備品	ビデオシステムセンター	13	甲南加古川病院
医療機器	入退室管理システム	10	甲南医療センター